

委 員 会 録

- 名 称 決算特別委員会（１日目）
- 日 時 令和３年９月１４日午前９時３０分から至午後４時１４分
- 場 所 和束町議会議場
- 出席委員 委員長 岡田 勇 副委員長 村山 一彦
委員 ８名 欠席 ０名
- 説明出席者 町長 副町長 管理職員
- 議長等 議長 岡田 泰正 副議長 岡田 勇
議会事務局 局長 島川 昌代 書記 西田 絵美

令和３年和束町決算特別委員会

○議長（岡田泰正君）

皆さん、おはようございます。

本日は、決算特別委員会にご参集いただき、ご苦勞さまです。

初めての決算特別委員会でありますので、委員会条例第９条の規定によりまして、
年長の岡田 勇委員に臨時委員長をお願いいたします。

臨時委員長と交代します。

○臨時委員長（岡田 勇君）

皆さん、おはようございます。

年長の故をもちまして、私、岡田 勇が臨時委員長の職務を行います。

ご協力のほどよろしくをお願いをいたします。

ただいまから、決算特別委員会を開会いたします。

小西 啓委員から遅刻の届けが出ています。

これより、決算特別委員長の選挙を行います。

委員長の選挙は、指名推選の方法により行いたいと思います。

これにご異議ありませんか。

異議なしと認めます。

したがって、委員長の選挙は、指名推選の方法で行います。

指名は、私から指名したいと思います。

これにご異議ありませんか。

異議なしと認め、私、岡田 勇を委員長に指名いたします。

ただいまの指名にご異議ありませんか。

異議なしと認めます。

したがって、私、岡田 勇が委員長に当選いたしました。

ただいま、委員長に当選しました私、岡田 勇が委員長就任の挨拶をいたします。

就任に対して一言ご挨拶を申し上げます。

ただいまは、皆様方のご推挙によりまして決算特別委員長という大役をお受けすることになりました。皆様のご協力を得て一生懸命努めてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

さて、令和２年度の決算につきましては、コロナ禍の中、事業の中止や縮小を余儀なくされた事態になりましたが、第４次総合計画の総決算年度であり、安全安心に重点を置き、将来を見据えたまちづくりを進めるという施政方針の下、様々な事業が執行されました。この令和２年度の決算が今後どのように生かされていくかということ踏まえて、委員の皆様には活発な質疑をいただきたいと思います。また、町長をはじめ管理職の皆さんにおかれましても、明快なる答弁をお願いいたします。

２日間お世話になりますが、スムーズに審議になりますようお願いを申し上げます。就任のご挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしくお願いをいたします。

○委員長（岡田 勇君）

それでは、副委員長の選挙を行います。

副委員長の選挙は、指名推選の方法により私から指名したいと思います。

これにご異議ありませんか。

異議なしと認め、副委員長に村山一彦委員を指名いたします。

ただいまの指名にご異議ありませんか。

異議なしと認めます。

したがって、村山一彦委員が副委員長に当選されました。

村山一彦委員にこの旨、告知いたします。

これより議事に入ります。

本委員会に付託された認定第１号から認定第７号まで、令和２年度和東町一般会計

歳入歳出決算認定及び和束町各特別会計歳入歳出決算認定についてを一括議題といたします。

提案理由については9日の本会議で述べられましたので、最初に、令和2年度決算審査意見書について、監査委員である畑 武志委員より報告願います。

○監査委員（畑 武志君）

それでは、皆さん、改めまして、おはようございます。

令和2年度決算審査意見書について、抜粋して報告をいたします。

令和2年度和束町一般会計及び6特別会計の歳入歳出決算並びに基金運用状況に係る審査について、和束町監査基準に準拠して審査を実施したので、次のとおり意見を付する。

令和3年8月20日

和束町監査委員 大西 茂

同 畑 武志

第1 審査の種類

地方自治法第233条第2項の規定に基づく決算審査

地方自治法第241条第5項の規定に基づく基金運用審査

第2 審査の期日

令和3年7月27日、28日、8月6日、20日（延べ4日間）

第3 審査の対象

1 一般会計及び特別会計決算

令和2年度和束町一般会計歳入歳出決算

令和2年度和束町湯船財産区特別会計歳入歳出決算

令和2年度和束町国民健康保険特別会計歳入歳出決算

令和2年度和束町簡易水道事業特別会計歳入歳出決算

令和2年度和束町下水道事業特別会計歳入歳出決算

令和２年度和束町介護保険特別会計歳入歳出決算

令和２年度和束町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算

２ 資金運用状況

和束町用品調達基金

「くらしの資金」貸付基金

第４ 審査の着眼点(評価項目)

決算審査にあたっては、決算その他関係書類が法令に適合し、かつ正確であることを主眼として審査した。

また、基金の運用の状況を示す書類の計数が正確であり、基金の運用が确实かつ効率的に行われているかを主眼として審査した。

第５ 審査の実施内容

この決算審査にあたっては、町長から提出された各会計歳入歳出決算書、歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調について、計数に誤りはないか、財政運営は健全か、財産管理は適正か、さらに予算の執行に当たって関係法令に従って効率的になされているか等に主眼をおき、関係諸帳簿及び証拠書類と照合し、併せて関係職員の説明を求め審査を実施した。

また、基金運用審査にあたっては、その設置目的にそって適正に運用されているか、計数は正確であるかなどを審査した。

第６ 審査の結果

審査に付された一般会計及び特別会計の歳入歳出決算書、歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書、財産に関する調及びその他関係書類は法令に適合して作成され、かつ正確に表示されているものと認める。

また、各調書の計数は歳入・歳出簿その他関係諸帳簿と符合しており、各会計の決算内容及び予算の執行についても適正に執行されているものと認める。

基金運用審査については、町長から提出された基金の運用の状況を示す書類の計数

は正確であると認められ、基金の運用が確實かつ効率的に行われているものと認める。

各会計及び基金の審査の結果及び意見は、次のとおりである。

5年間の推移をつけておりますので、お目通しをいただきたいと思います。

1 一般会計

(1) 決算の状況

令和2年度一般会計決算額は、下表のとおりである。

歳入では、前年度と比較して国庫支出金が5億5,093万7,000円、地方交付税が1億1,003万6,000円、町債が4,700万円、地方消費税交付金が1,506万8,000円、地方譲与税が263万8,000円それぞれ増加した一方、繰越金が△7,421万2,000円、繰入金が△3,860万8,000円、町税が△1,309万3,000円、府支出金が△1,109万2,000円、諸収入が△947万2,000円それぞれ減少している。

歳出では、前年度と比較して総務費が4億4,232万1,000円、民生費が1億256万4,000円、衛生費が5,743万5,000円、農林業費が1,963万3,000円それぞれ増加した一方、災害復旧費が△3,912万5,000円、公債費が△3,186万5,000円、商工費が△1,179万6,000円それぞれ減少している。

歳入歳出決算状況は、次のとおりでございます。お目通しをいただきたいと思います。

続きまして、4ページ、歳入でございます。

歳入の款別の決算状況は、次のとおりでございます。お目通しをいただきたいと思います。

5ページでございます。

ア 町税

当年度の町税の決算状況を見ると、予算現額3億6,144万6,000円に対し、

調定額 3 億 8,961 万 7,000 円、収入済額 3 億 7,252 万 9,000 円となっている。

収入済額は現年度分 3 億 6,913 万 9,000 円と滞納繰越分 339 万円と合わせて 3 億 7,252 万 9,000 円で、前年度決算額 3 億 8,562 万 2,000 円より△1,309 万 3,000 円減少している。

町税の調定及び収入状況は、次のとおりでございます。お目通しをいただきたいと思ひます。

税目別に見ると現年課税分の個人町民税の徴収率が 98.9%と前年度と比較して 0.4 ポイントの増加、法人町民税の徴収率が 100%と前年度比 6.6 ポイントの増加、固定資産税の徴収率は前年度と同率の 98.8%、軽自動車税の徴収率は 98.4%、前年度比△0.2 ポイントの減少、市町村たばこ税は前年度と同率の 100%の徴収率となっている。

滞納繰越分の個人町民税の徴収率は 37.9%、前年度比△12.4 ポイントの減少、法人町民税の徴収率が 3.0%と前年度比△42.7 ポイントの減少、固定資産税の徴収率が 19.2%、前年度比 5.4 ポイントの減少、軽自動車税の徴収率が 21.9%と前年度比△1.5 ポイントの減少となっている。

町全体の前年度と比較すると収入済額は 3 億 7,252 万 9,000 円で△1,309 万 3,000 円の減少、徴収率は 95.6%で前年度比△0.1 ポイントの減少となっている。

6 ページでございます。

府内 11 町村との比較（徴収率）をつけております。お目通しをいただきたいと思ひます。

町税の徴収率を府内 11 町村と比較してみると、令和元年度の現年度課税分については△0.9 ポイント下回っているが、滞納繰越分については 2.7 ポイント上回っている。現年度課税分については、府内町村並に徴収率のアップに努める必要がある。

イ 使用料・負担金でございます。

住宅使用料の現年度分の収入済額は８７８万８，０００円で、前年度と比較して８万９，０００円増加しており、徴収率は９９％で９．５ポイントの増加、過年度分の収入済額は７１万９，０００円で、前年度と比較して７，０００円増加し、徴収率は４．５％となっており、悪質滞納者の住宅明渡しや徴収努力により、現年度の徴収率が大幅に増加した。

また、保育料の現年度分の収入済額は４２２万２，０００円で、令和元年１０月より開始された保育料の無償化に伴い、前年度と比較して△３１１万７，０００円の減少、徴収率は前年度と同様１００％である。過年度分の収入済額は７万円で、前年度と比較して１万円増加し、徴収率は３３．６ポイントで１１．２ポイント増加している。

ウ その他でございます。

町税とともに重要な一般財源である地方交付税は、普通交付税及び特別交付税を合わせ総額１７億３，９２１万６，０００円で、前年度と比較して１億１，００３万６，０００円の増加となっている。

国庫支出金は７億７，２６２万２，０００円で、特別定額給付金給付事業費補助金や新型コロナ対応地方創生臨時交付金などに伴い、前年度と比較して５億５，０９３万７，０００円の増加となっている。

町債は３億６，４６０万円で、体験交流センターの耐震改修事業等に伴い、前年度と比較して４，７００万円の増加となっている。

一方、繰入金は５，２２７万５，０００円で、財政調整基金の繰入が皆減となったことに伴い、前年度と比較して△３，８６０万８，０００円の減少となっている。

７ページでございます。

（３）歳出におきましては、目的別に分類すると次のとおりでございます。お目通しをいただきたいと思います。

目的別歳出を前年度と比較すると、総務費は特別定額給付金事業や体験交流センタ

一耐震改修事業等により４億４，２３２万１，０００円の増加、民生費は新型コロナウイルス感染症対策に係る子育て世帯等生活支援給付金事業や新生児特別定額給付金事業、地域福祉資金積立金等により１億２５６万４，０００円の増加、衛生費は、大谷処理場大規模改修に係る相楽郡広域事務組合負担金等により５，７４３万５，０００円の増加、農林業費は、新型コロナウイルス感染症対策に係る茶業経営支援給付金事業等により１，９６３万３，０００円の増加となっている。

一方、災害復旧費は、地すべり災害復旧事業の減少等に伴い△３，９１２万５，０００円の減少、公債費は、元利償還金の減少に伴い△３，１８６万５，０００円の減少、商工費は、湯船マウンテンバイクランド整備事業やワールドマスターズゲームズ実施計画策定事業の皆減等に伴い△１，１７９万６，０００円の減少となっている。

８ページでございます。

歳出を性質別に分類すると、次のとおりでございます。お目通しをいただきたいと思えます。

２ 特別会計

（１）湯船財産区特別会計でございます。

決算状況は次のとおりでございます。お目通しをいただきたいと思えます。

湯船財産区財政調整基金繰入金３００万円が収入されたことにより３３万６，０００円の黒字となった。平成３０年には立木伐採補償料による財産収入があったため基金への積立ができたものの、基金残高が６５２万７，０００円となり、基金の枯渇が迫っている。基金からの繰入金以外の収入がほぼなく、今後、財政運営が困難となることが見込まれることから、運営方法等について根本的な見直しが必要である。

９ページでございます。

（２）国民健康保険特別会計

①事業勘定の決算状況等は、次のとおりでございます。お目通しをいただきたいと思えます。

決算額は、歳入 6 億 1,765 万 4,000 円、歳出 5 億 8,465 万円で、歳入歳出差引額は 3,300 万 4,000 円の黒字となっている。前年度と比較すると、歳入総額は△6,395 万 2,000 円の減少、歳出総額は△5,071 万 8,000 円の減少となっている。内訳を前年度と比較すると、歳入では、令和元年度の晩霜被害に係る影響や新型コロナウイルス感染症に係る減免措置等により国民健康保険税が△2,034 万 2,000 円の減少、歳出では、新型コロナウイルス感染症に伴う医療機関への受診控えなどの影響により保険給付費が△4,879 万 5,000 円減少、国民健康保険事業費納付金も△130 万 4,000 円減少しているが、財政調整基金に 2,000 万円を積立てをしている。

なお、平成 30 年度から都道府県が財政運営の責任主体となり、財政規模・財政構造共に大きく変化した。移行から 3 年が経過し財政運営に一定の目途がたったことから、令和 3 年度より保険税率を引き下げている。

10 ページでございます。

国民健康保険税徴収状況についてでございます。図に示しております。お目通しをいただきたいと思ひます。

次に、11 ページ。

②直営診療施設勘定の決算状況は、次のとおりでございます。お目通しをいただきたいと思ひます。

前年度と比較すると、歳入は診療収入が△848 万 5,000 円減少したことに伴い、一般会計繰入金が対前年度 750 万円増加し、3,550 万円の繰入金となっている。

施設の老朽化が進んでいるため、総合保健福祉施設整備に向けて本格的な事業を開始したところであるが、将来を見据えた計画的な整備が求められる。また、一般会計繰入金が年々増加している状況を踏まえ、直営施設としての責務のもと地域医療の確保に努め、繰入金に頼ることのない健全な財政運営を進めていく必要がある。

次に、（３）簡易水道事業特別会計でございます。

決算状況については、次のとおりでございます。お目通しをいただきたいと思います。

前年度と比較すると、歳入が１億９３９万８,０００円、歳出が１億９９２万４,０００円それぞれ増加している。これは、老朽化や災害に備えた水道施設設備の更新、また、これに伴う国庫支出金や地方債の増加によるものである。

水道使用料の徴収率は、現年度分で９９.９５％、過年度分で７.３％、現年度分は０.０２ポイントの好転、過年度分は△２.２ポイント悪化している。

給水人口の減少と併せて、元利償還金が今後も大幅に増加する見込みであり、非常に厳しい経営状況となることが予想される。経営改善・効率化を進めながら、独立採算の原則に基づき、中長期的な財政収支の見通しを踏まえた適正料金の見直しを進める必要がある。

なお、平成２８年度からの決算審査意見書と同様の意見ではあるが、今年度及び今後の経営状況を踏まえ、より計画的な見直しを進める必要があると考えられる。

次、１２ページでございます。

（４）下水道事業特別会計でございます。

決算状況につきましては、次のとおりでございます。お目通しをいただきたいと思います。このように思います。

前年度と比較すると、歳入が１,３３８万１,０００円、歳出が２３７万１,０００円それぞれ増加した。計画的な設備等の修繕・更新を実施するためのストックマネジメント計画の策定等により、一般会計繰入金が１,８４５万円増加している。

下水道使用料の徴収率については、現年度分で９９.９％、過年度分で５.４％となり、現年度分では０.１ポイント改善、過年度分では△４.６ポイント悪化した。

施設設備の老朽化が進行しており、ストックマネジメント計画に基づく更新を計画的に進めていく必要がある。サービスの継続的な提供を維持できるよう計画的かつ合

理的な経営を進め、経営の健全化に努められたい。

（５）介護保険特別会計でございます。

①保険事業勘定の決算状況は、次のとおりでございます。お目通しをいただきたいと思ひます。

前年度と比較すると、施設介護サービス給付費をはじめとする保険給付費が２，７３８万４，０００円増加したことなどにより、歳入が３，５６７万円、歳出が３，０５１万７，０００円それぞれ増加した。

介護保険料の徴収率は、現年度分で９９．４％、過年度分では３３．６％となり、現年度分は０．４ポイント、過年度分は１５．４ポイント好転している。

高齢者の増加に伴い保険給付費が急増しており、介護給付費準備基金を繰入しながら財政運営を行っている。第８期介護保険事業計画に基づき、介護予防・健康づくりの推進・充実を進めることなどにより給付費の抑制に努めながら、地域包括ケアシステムの取組の強化を進められたい。

１３ページでございます。

②介護サービス事業勘定の決算状況は、次のとおりでございます。お目通しをいただきたいと思ひます。

前年度と比較すると、歳入が△５４万８，０００円、歳出が△３８万９，０００円それぞれ減少した。サービス収入が△２万２，０００円減少したものの、地域包括支援システムパソコン更新事業の皆減等に伴い、総務管理費で△４５万６，０００円減少したため、一般会計繰入金△９３万７，０００円減少している。

次に、（６）後期高齢者医療特別会計でございます。

決算状況については、次のとおりでございます。これについてもお目通しをいただきたいと思ひます。

前年度と比較すると、歳入が５９２万３，０００円、歳出が５９３万６，０００円それぞれ増加し、歳入歳出とも毎年増加傾向にある。

後期高齢者医療保険料の徴収率は、現年度分で98.2%、過年度分で22.8%となり、現年度分は△0.7ポイント、過年度分は△1.7ポイントそれぞれ悪化している。

後期高齢者医療においては、高齢者の増加に伴って医療費も増加している。平成20年4月より広域連合で運営しているが、高齢者が将来にわたり安心して医療が受けられるよう同制度の安定的な運営を期待する。

14ページでございます。

次に、3 基金の運用状況でございます。

(1) 用品調達基金

本基金は、用品の集中購入を実施することにより、用品の取得及び管理に関する事務を円滑かつ効率的に行うことを目的として、平成2年9月に設置されたもので、基金総額300万円で運用されている。

当年度の運用状況は以下のとおりでございます。お目通しをいただきたいと思います。

用品の取得価格と払出価格に差額が生じた場合は、過不足額の整理が必要であることから、令和2年度においても1,810円が整理されている。

次に、(2)「くらしの資金」貸付基金でございます。

本基金は、「くらしの資金」の貸付けに関する事務を、円滑かつ効率的に行うことを目的として、昭和45年12月に設置されたもので、基金総額670万円で運用されている。

令和2年度において、新型コロナウイルス感染症の影響による経済的支援を拡充するため、300万円を積み増ししている。

当年度の運用状況については、以下のとおりでございます。これについてもお目通しをいただきたいと思います。

15ページでございます。

4 総括としては、（１）決算規模。

令和２年度一般会計及び特別会計の決算は、次のとおりでございます。お目通しをいただきたいと思います。

決算額を前年度と比較すると、歳入決算額は６億６,８８１万６,０００円、歳出決算額は６億６,５６１万６,０００円それぞれ増加している。

（２）決算収支でございます。

一般会計及び６特別会計の決算における、歳入歳出差引額は１億５,４６５万４,０００円、歳入歳出差引額から繰越事業に必要な金額を除いた実質収支額は１億５６５万１,０００円、また実質収支額から前年度の実質収支額を差し引いた単年度収支額は△２,７４２万５,０００円となった。

決算収支の対前年度比較は次のとおりでございます。お目通しをいただきたいと思います。

（３）予算の執行状況でございます。

歳入は予算現額６２億８,４６６万３,０００円に対し、決算額は５９億９,６１０万５,０００円で収入率は９５.４％となっている。歳出は決算額が５８億４,１４５万１,０００円で執行率は９２.９％となっている。

会計別執行状況は次のとおりでございます。どうぞ、この分についてもお目通しをいただきたいと思います。

（４）財政状況（財政指数）でございます。

令和２年度決算の主な財政指標は、第１表・第２表のとおりである。

財政構造の弾力性や健全性を示す経常収支比率は９３.０％で、普通交付税の増加により、前年度の９８.０％より５.０ポイント好転している。一方、財政力指数は０.２０２へと悪化しており、依然財政の硬直化が見受けられる。

実質公債費比率（３か年平均）は前年度比０.８ポイント増の１２.７％となり、過疎対策事業債をはじめとした交付税措置のある有利な地方債を借入するなどして、早

期健全化基準である25.0%以下に抑えられているが、総合保健福祉施設整備事業や和束保育園耐震改修事業等の大規模事業が計画されていること、簡易水道事業に係る元利償還金が年々増加していることなどから、今後悪化していくことが予想されるため、財源を確保しながら起債発行の抑制に努める必要がある。

(5) 財源の確保と事業の執行でございます。

一般会計と特別会計の収入未済額の合計額は、第6表のとおり8,269万3,000円と年々減少している。今後も引き続き徴収努力を継続されるとともに、コロナ禍の状況であるものの、税機構任せとすることなく十分な連携をとりながら、随時状況の把握に努めつつ、徴収率向上に向けた取組を推進されたい。

収入未済額のうち、死亡及び居所不明、時効の完成等の理由によるものについては不納欠損処理を実施されているが、第7表のとおり、令和2年度については、不納欠損額が町税118万6,000円、国民健康保険特別会計(事業勘定)138万8,000円、介護保険特別会計(事業勘定)26万3,000円の合計283万7,000円で、前年度と比較すると△192万2,000円減少している。徴収にあたっては、死亡や居所不明などにより徴収がほぼ不可能であると見込まれるものと徴収可能であるものを整理したうえで、効率的に徴収事務を進められたい。また、長年、収入未済となっているものについては、相続人や保証人等の調査をはじめとした必要な手続きを踏んだうえで、法令・条例に従い、適切に滞納整理を進められたい。

令和2年度においては、前年度から引き続いて、住宅・水道・下水道使用料、介護保険料の徴収率が例年以上に高く、徴収努力を高く評価できる。特に、水道使用料においては見直しを検討されているなか、現年度分については徴収努力の成果が認められる一方で、過年度分については過去からの収入未済額が大きいことから、納付の公平性を保つよう徴収努力の継続と併せて、適切な事務処理を経たうえで滞納整理を行うなどの対応を検討されたい。また、悪質滞納者に対しては、住宅の明渡しや給水停止処分、給付制限等、法令・条例に基づき、適切な対応を講じられたい。

また、事業執行にあたっては、国庫支出金や府支出金などの財源確保に対する努力が見られる一方、翌年度への繰越事業が多い状況にある。繰越事業においては、事務手続が煩雑になり各事業が順々に遅れていくことから、制度上やむを得ない場合を除き、繰越することがないように事業内容・計画を精査されたい。

（６）基金管理等でございます。

「くらしの資金」貸付基金や生活更生資金貸付金等について、貸付直後に転出される等の事例もみられたことから月１回程度の在住状況の確認や借受人の現状把握が必要である。また、死亡されている場合は相続人の確認など継続調査と併せて、滞納整理を慎重に進められるとともに、弁護士を介して速やかに処理されたい。

アグリビジネス株式会社の株式１８０万円については、登記を確認したところ、みなし解散状態にあり資産価値が疑わしいため、法的根拠や関係機関の状況を確認しつつ、取扱いについて検討する必要がある。

（７）おわりに

令和２年度は和束町第４次総合計画を締めくくる年度として位置付けられるなか、６つの協働プログラムを中心とした様々な施策に取り組みながら全会計とも黒字決算となった。

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るうなか、感染拡大防止事業や経済的支援事業について臨機応変に実施しながら、保健・福祉施策の推進や防災対策の充実なども着実に取り組みつつ、住民が安心して生活できるまちづくりを進められてきた。

一方、喫緊の課題である人口減少に加え、新型コロナウイルス感染症の影響も重なり、町税は減収傾向にあることから、財政運営はより一層厳しさを増していくことが予想される。そのようななか、事業を縮小させることなく、総合保健福祉施設整備をはじめとする大規模事業を見据え、地域福祉基金や減債基金に積立するなど計画的な財政運営を行うなど将来を見据えながら、適切性・効率性を鑑みつつ、健全で持続可能な財政運営の確立に向け一層の取組に努められたい。

最後に、今年度は新たに和束町第5次総合計画を策定し、まちづくりの転換を迎えることから、前計画を発展・継承させつつ、住民とともに、より一層まちづくりに邁進されるよう期待し、令和2年度決算審査の意見とする。

以上でございます。

○委員長（岡田 勇君）

畑委員の報告が終了いたしました。

会議の途中ではありますが、ただいまから10時40分まで休憩します。

休憩（午前10時26分～午前10時40分）

○委員長（岡田 勇君）

休憩前に引き続き会議を開き、説明を続けます。

続きまして、副町長から順次説明を求めます。

なお、説明に当たっては、決算書は款のみの数字にとどめ、決算事項別明細書については、特に重要なもののみにし、簡単明瞭に説明願います。

それでは、副町長から順次説明願います。

副町長。

○副町長（奥田 右君）

それでは、私のほうから、主要な施策の成果の説明書をもって説明させていただきたいと思います。

地方自治法第233条第5項の規定に基づき、令和2年度決算に係る主要な施策の成果を説明する書類を次のとおり提出する。

令和3年9月8日

和束町長 堀 忠雄

1. 総括

令和2年度は新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい続け、住民生活や行財政運営に大きな影響を与え、未だ予断を許さない状況が続いています。このような状況の

なか、令和２年度は計画最終年度を迎える第４次総合計画の総決算の年度と位置づけ、「ずっと暮らしたい活力と交流の茶源郷和束」の実現に向けて、様々な施策を展開してきたところでございます。

（１）和束を担う次世代の人づくり協働プログラム

小・中学生の給食費及び修学旅行費や保育料の無償化の継続とともに、１８歳までの医療費無償化のためのすこやかエンジェル基金への積立など将来にわたり安心して子育てできる環境の構築を目指し、子育て支援の充実に取り組んでまいりました。

（２）住民が支えあう安心と信頼の協働プログラム

総合的な保健医療の中核施設として総合保健福祉施設を整備するため住民や関係機関と議論を重ねてまいりました。また、新型コロナウイルスワクチンの接種体制確保に向けた取組を進めるなど住み慣れたまちで安心して生活できる体制の構築を推進してまいりました。

（３）安全で快適な暮らしを実感できる協働プログラム

老朽化に伴う橋りょう整備や町道整備、安心安全で安定的な水道水供給のための簡易水道設備の整備を進め、便利で快適な暮らしの充実を図ってまいりました。

（４）自然を守りともに暮らす協働プログラム

激甚化する災害に備え、指定避難所である体験交流センターの耐震改修やマンホールトイレ整備、災害対策備品の整備など防災力の強靱化を進めてまいりました。

（５）和束のブランドを高める協働プログラム

全国初の取組となるゴルフカートの活用による観光に特化した有償運送事業の開始、ワールドマスターズゲームズ開催に向けた取組の推進、住民との協働による交流ステーションの運営開始、和束茶を国内外へ発信するための取組など和束ブランドの向上を目指した取組を展開してまいりました。

（６）住民・事業者・行政がともに進める協働プログラム

生業景観を継承するため、全国初となる文化的景観調査と伝統的建造物群調査を一

体的に進めてまいりました。また、情報発信強化のため、町ホームページの更新を進めてまいりました。

（７）新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルスの感染拡大防止や感染拡大の影響を受けている地域経済や住民生活の支援などを図るため、マスク整備をはじめとした感染拡大防止事業、生活応援商品券事業や子育て世帯、事業者などを対象とした支援金事業など本町の実情に応じた事業を迅速に展開してまいりました。

以上のような事業を進め、令和２年度一般会計他６特別会計の決算は、歳入５９億９,６１０万５,０００円、歳出５８億４,１４５万１,０００円、歳入歳出差引額１億５,４６５万４,０００円の黒字となりました。

次ページをめくっていただきたいと思います。

２．歳入の概要

一般会計の歳入総額の対前年度比は、５億６,８４３万４,０００円（１７.３％）の増額となりました。

歳入の内訳については、以下のとおりです。

主なもののみ若干説明させていただきたいと思います。

まず、町税でございます。増減につきましては、△１,３０９万３,０００円、△３.４％となっております。これにつきましては、所得割のほうで△７５８万２,０００円、固定資産税のほうで△３９０万８,０００円、また法人税割で△１４５万９,０００円、コロナとあと固定資産税については評価替えの関係が影響しております。

次に、ちょっと飛ばさせていただきまして、地方消費税交付金で増額の１,５０６万８,０００円、２５.７％の増額となっております。これにつきましては、令和元年１０月１日で消費税が改正されておりました、地方消費税で０.５％アップしたのが要因でございます。

あと、ちょっと飛ばさせていただきまして、地方交付税でございます。１億１,０

3万6,000円の増額ということで、6.8%の増となっております。これにつきましては、地域社会再生事業費の創設ということで、これは人口が減少した場合の、今回新たにそういった費用が見えていただけるということとなっております。それと、あと、公債費の中で過疎債を今現在発行しております。その跳ね返り分の増額が主な要因となっております。

少し飛ばさせていただいて、国庫支出金でございます。5億5,093万7,000円の増ということで248.5%の増額となっております。これにつきましては1人10万円の定額給付金並びに臨時交付金の国からの支出が大きな要因となっております。

最後に町債でございます。4,700万円の増額ということで、14.8%の増額となっております。この過疎債につきましては減ってるわけなんですけれども、令和2年度につきましては緊急防災減災起債とか公共施設の耐震化に係る起債を発行しておりますので、その関係の増額が主な要因となっております。

次に、次ページの3.歳出の概要でございます。

一般会計の歳出の総額につきましては、対前年度比は5億6,853万3,000円ということで、17.7%の増額となっております。

歳出の内訳については以下のとおりということで、これも主なもののみ紹介させていただきます。

まず、総務費につきましては、定額給付金事業が主な増額として3億8,326万5,000円支出をしております。

あと、民生費につきましては、子育て世帯の生活支援の給付金が主な要因でございます。

農林業費につきましては、茶業経営の支援給付金が主な要因となっております。

次に、(2)性質別でございます。

まず、人件費につきましては、7.2%の増ということで4,172万4,000円

が増えております。これにつきましては、法の改正によりまして会計年度制度が令和2年度から始まっておりまして、その関係が大きな要因でございます。

物件費の減につきましては、△5,298万6,000円、△15.3%の減となっております。これにつきましては、従来、賃金が物件費の中に一部含まれておりましたので、制度の改正によって性質が変わっております。それが主な要因でございます。

修繕維持費で大きく伸びております。これにつきましては、防火水槽等の修繕を行っており、また町道整備の維持管理の修繕が増えておるのが大きな要因でございます。

補助費等につきましては、4億8,154万6,000円、56%の増ということで、これは定額給付金事業が大きな要因でございます。

以上が歳出の概要でございます。

次ページをお願いいたします。

4. 特別会計につきましては、お目通しのほうをよろしくお願いしたいと思います。

次に、第4次総合計画に基づきまして、六つの協働プログラムにより主な施策を進めてまいっております。それにつきましては、プログラムごとに説明させていただきたいと思っております。

まず、「和束を担う次世代の人づくり協働プログラム」4億7,790万3,000円を支出しております。その中の子育て支援で2億1,585万9,000円ということで、主なものにつきましては、保育所の運営事業8,402万4,000円、また子育て支援センター事業、これが1,287万7,000円、少し飛ばさせていただきまして、児童手当給付事業3,314万3,000円、そして、今年、令和2年度の決算で新たに出てきてますのが、すこやかエンジェル基金積立関係1,890万円が主な要因でございます。めくっていただきまして、2ページの子育て世帯等生活支援給付金事業、これも令和2年度に新たに出ております3,355万5,000円が主な事業でございます。

学校教育・社会教育・スポーツ・歴史文化で2億3,110万3,000円支出して

おります。主な中身としましては、相楽東部広域連合負担金（教育費分）でございます。２億２，４４１万円、これが主な中身でございます。

あと、交流です。３，０９４万１，０００円で、主な事業としましては、活性化対策事業で２，１２１万６，０００円支出しております。これが主な事業となっております。

次に、「住民が支えあう安心と信頼の協働プログラム」で９億７，４９４万４，０００円支出しております。主な事業ですけれども、人権尊重のほうで２，３３９万８，０００円支出しております。主な事業としましては、人権ふれあいセンター運営事業費で２，２３５万２，０００円が主な事業となっております。

次に、保健・医療で１億９，６５０万１，０００円支出しております。主な事業としましては、国民健康保険特別会計事業勘定繰出金でございます。これが４，２７６万円、同じく、直診勘定の繰出金３，５５０万円、山城病院組合負担金で２，９１３万１，０００円、そして、令和２年度で新たに出ておりますのが地域福祉基金に積み立てております、これが６，００１万７，０００円が主な事業でございます。

めくっていただきまして、高齢者・障がい者支援で３億４，５４０万５，０００円支出しております。主なものとしまして、後期高齢者療養給付事業で６，９６４万１，０００円、ちょっと飛ばさせていただきまして、障害者自立支援給付事業で９，８４０万３，０００円、次ページの介護保険特別会計保険事業勘定繰出金で９，８１７万５，０００円、一つ飛ばさせていただきまして、後期高齢者医療特別会計繰出金で２，６０３万３，０００円が主な内容となっております。

次に、地域福祉でございます。４億４９３万４，０００円を支出しております。主なものとしましては、一番下の社協職員設置事業で１，８１０万４，０００円、次ページをめくっていただきまして、先ほども触れましたけど、特別定額給付金、１人１０万円の事業でございます。３億８，３２６万５，０００円が支出されております。

次に、地域安全でございます。４７０万６，０００円、これは交通安全対策事業で、同額となっております。

次に、「安全で快適な暮らしを実感できる協働プログラム」、1億9,953万7,000円を支出しております。その中の情報のほうで920万2,000円ということで、茶源郷行政情報配信事業で同額を支出しております。

次に、道路でございます。1億2,403万5,000円。主なものとしては、町道整備事業（滝ノ下線）で1,471万9,000円、また、次ページの7ページで、町道撰原下島線拡幅改良事業で1,020万7,000円、一つ飛ばしまして、町道舗装維持管理事業でございます1,550万7,000円、一つ飛ばしまして、祝橋整備事業で1,912万9,000円、一つ飛ばしまして、橋りょう長寿命化修繕事業でございます。3,682万円が主な事業となっております。

次に、公共交通でございます。2,471万8,000円、主な中身につきましては、路線バス対策事業で2,380万3,000円となっております。

次、8ページをよろしくお願いします。

次に、住宅でございます。3,661万4,000円、住宅管理事業で863万5,000円、また、その下の共同浴場運営事業で1,277万8,000円が主な事業となっております。

次に、公園・緑地でございます。490万5,000円、主な事業としては、和束運動公園美化事業で480万円が主な事業となっております。

次に、9ページをよろしくお願いします。

「自然を守りともに暮らす協働プログラム」ということで、7億795万2,000円を支出しております。

まず、防災でございます。2億6,261万9,000円ということで、主な中身としては、相楽中部消防組合負担金で1億4,260万3,000円、二つ飛ばしまして、マンホールトイレ設置事業でございます。1,805万1,000円、これが新たに出ております。また、一つ飛ばしまして体験交流センター耐震補強工事6,882万3,000円、これも新たに出てきております。

次に、上水道事業でございます。２億４，４５２万５，０００円でございます。

次ページをよろしく申し上げます。

主な事業の中身でございます。簡易水道特別会計繰出金で７，７１９万５，０００円、また下水道事業特別会計繰出金で１億６，６３２万５，０００円を繰り出しております。

次に、森林保全・治山・治水でございます。１，０６６万２，０００円でございます。主な中身としましては、森林組合助成事業でございます。これが２００万円、また豊かな森を育てる府民税交付金事業で２１０万８，０００円が主な事業となっております。その下の林道等維持管理事業で５６１万７，０００円を支出しております。

次に、環境・循環資源・エネルギーの関係でございます。１億９，０１４万６，０００円でございます。主な中身としましては、じん芥処理費で１億７９０万５，０００円でございます。次ページの１１ページのし尿処理費のほうで７，７４３万６，０００円が主な事業となっております。

次に、「和東のブランドを高める協働プログラム」でございます。２億１，４５１万５，０００円を支出しております。

主な事業としては、農林業で４，８６４万２，０００円を支出しております。その中の主な事業ですけれども、農業次世代人材投資資金給付事業で６７５万円支出しております。次、めくっていただきたいと思います。野生鳥獣被害総合対策事業で６０１万４，０００円支出させていただいています。そして、一番下ですけれども、コロナ対策ということで、茶業経営支援給付金事業が２，１０４万７，０００円支出しております。

次に、商工業でございます。４，６２６万７，０００円支出しております。主なものとしては、雇用促進事業で１，２５２万４，０００円、また、一つ飛ばさせていただきまして、コロナ対策で生活応援商品券事業２，１９１万３，０００円を支出しております。

次に、１３ページをよろしく申し上げます。

次に、交流産業でございます。9,821万3,000円を支出しております。主なものとしましては、上から六つ目、湯船マウンテンバイク整備事業で1,667万5,000円、その一つ下のマウンテンバイクランド活用促進事業で1,248万1,000円、そして一番下の交流ステーション（農産物直売所）整備事業ですけれども、1,793万4,000円が主な事業となっております。そして、14ページのグリーンティ和東駐車場舗装整備の関係ですけれども、818万7,000円を支出しております。これが主な事業となっております。

次に、15ページをよろしくお願いします。

新たな産業の創出ということで2,139万3,000円を支出しております。茶源郷和東にぎわい創出プロジェクト事業ということで1,678万9,000円が主な事業となっております。

「住民・事業者・行政が共に進める協働プログラム」ということで1億242万円支出しております。

その中の住民参画のまちづくり361万2,000円ということで、主な事業につきましては、文化的景観調査事業でございます。300万4,000円支出しております。これが主な事業となっております。

次に、情報公開でございます、799万3,000円。主な事業につきましてはホームページ構築事業で、同額となっております。

次、16ページをよろしくお願いします。

行財政・地域経営で6,243万2,000円支出しております。主な事業につきましては、電子計算費で4,230万9,000円、また、戸籍電子化事業で1,120万3,000円が主な事業となっております。

最後に、広域事業でございます、2,838万3,000円。主な事業につきましては、相楽東部広域連合負担金（総務費・民生費分）1,944万1,000円ということとなっております。

以上、私のほうから説明とさせていただきます。

この後、担当課長のほうから説明いたしますので、よろしくお願いいたします。

○委員長（岡田 勇君）

次に、会計課長。

○会計管理者兼会計課長（瀧村幸代君）

それでは、私からは、令和２年度の一般会計並びに６特別会計につきましてご説明を申し上げます。

議案書の認定第１号をお開き願います。

認定第１号

令和２年度和束町一般会計歳入歳出決算認定について

地方自治法第２３３第３項の規定により、令和２年度和束町一般会計歳入歳出決算を、別紙監査委員の意見を付けて議会の認定に付する。

令和３年９月８日提出

和束町長 堀 忠雄

決算書の１ページ、２ページをお願いいたします。

令和２年度和束町一般会計歳入歳出決算

歳入でございます。

款、予算現額、調定額、収入済額、不納欠損額、収入未済額の順に、朗読により説明させていただきます。

１款町税、３億６,１４４万６,０００円、３億８,９６１万７,０３６円、３億７,２５２万８,４４５円、１１８万５,５２７円、１,５９０万３,０６４円。

２款地方譲与税、３,２８９万４,０００円、調定額・収入済額同額でございます。０円、０円。

３款利子割交付金、３３万８,０００円、調定額・収入済額同額でございます。０円、０円。

4 款配当割交付金、2 3 3 万 1, 0 0 0 円、調定額・収入済額同額でございます。
0 円、0 円。

5 款株式等譲渡所得割交付金、2 5 8 万 1, 0 0 0 円、調定額・収入済額同額でございます。0 円、0 円。

6 款法人事業税交付金、6 0 万 1, 0 0 0 円、調定額・収入済額同額でございます。
0 円、0 円。

7 款地方消費税交付金、7, 3 7 3 万 6, 0 0 0 円、調定額・収入済額同額でございます。0 円、0 円。

8 款ゴルフ場利用税交付金、1, 1 7 0 万 2, 0 0 0 円、1, 1 7 0 万 2, 9 3 3 円、
収入済額同額でございます。0 円、0 円。

9 款環境性能割交付金 4 3 4 万 1, 0 0 0 円、4 3 4 万 1, 7 7 5 円、収入済額同額
でございます。0 円、0 円。

めくっていただきまして、1 0 款地方特例交付金、3 0 0 万 8, 0 0 0 円、調定
額・収入済額同額でございます。0 円、0 円。

1 1 款地方交付税、1 7 億 3, 9 2 1 万 6, 0 0 0 円、調定額・収入済額同額ござ
います。0 円、0 円。

1 2 款交通安全対策特別交付金、全て 0 円でございます。

1 3 款分担金及び負担金、7, 4 1 0 万 9, 0 0 0 円、7, 4 1 3 万 7, 7 2 6 円、7,
3 9 6 万 9, 2 3 8 円、0 円、1 6 万 8, 4 8 8 円。

1 4 款使用料及び手数料、2, 8 1 5 万 4, 0 0 0 円、4, 6 0 6 万 9, 6 2 3 円、2,
9 8 0 万 9, 4 6 5 円、0 円、1, 6 2 6 万 1 5 8 円。

1 5 款国庫支出金、9 億 3, 3 9 3 万 6, 0 0 0 円、7 億 7, 2 6 2 万 1, 9 1 5 円、
収入済額同額でございます。0 円、0 円。

1 6 款府支出金、2 億 2 1 6 万円、1 億 9, 8 5 2 万 4, 3 1 0 円、収入済額同額で
ございます。0 円、0 円。

17 款財産収入、25 万 7,000 円、15 万 6,271 円、収入済額同額でございます。0 円、0 円。

めくっていただきまして、18 款寄付金、137 万 5,000 円、調定額・収入済額同額でございます。0 円、0 円。

19 款繰入金、5,227 万 3,000 円、5,227 万 5,459 円、収入済額同額でございます。0 円、0 円。

20 款繰越金、8,130 万円、8,130 万 245 円、収入済額同額でございます。0 円、0 円。

21 款諸収入、4,319 万 2,000 円、5,031 万 688 円、4,368 万 4,734 円、0 円、662 万 5,954 円。

22 款町債、5 億 1,550 万円、3 億 6,460 万円、収入済額同額でございます。0 円、0 円。

歳入合計、予算現額 41 億 6,445 万円、調定額 39 億 173 万 7,981 円、収入済額 38 億 6,159 万 4,790 円、不納欠損額 118 万 5,527 円、収入未済額 3,895 万 7,664 円。

めくっていただきまして、歳出でございます。

款、予算現額、支出済額、翌年度繰越額、不用額の順に、朗読により説明させていただきます。

1 款議会費、5,388 万 1,000 円、5,377 万 2,945 円、0 円、10 万 8,055 円。

2 款総務費、12 億 5,873 万円、11 億 942 万 9,874 円、1 億 3,419 万 8,000 円、1,510 万 2,126 円。

3 款民生費、8 億 608 万 7,000 円、8 億 311 万 851 円、0 円、297 万 6,149 円。

4 款衛生費、5 億 6,682 万 2,000 円、5 億 4,583 万 2,657 円、2,0

00万9,000円、98万343円。

5款農林業費、1億6,698万5,000円、1億6,559万7,829円、0円、138万7,171円。

6款商工費、1億1,140万8,000円、1億1,048万3,381円、0円、92万4,619円。

7款土木費、3億3,622万3,000円、1億8,129万4,152円、1億5,081万9,000円、410万9,848円。

めくっていただきまして、8款消防費、2億2,380万7,000円、1億9,978万9,704円、2,095万9,000円、305万8,296円。

9款教育費、2億2,441万円、支出済額同額でございます。0円、0円。

10款災害復旧費、6,879万9,000円、4,153万9,044円、1,900万円、825万9,956円。

11款公債費、3億4,552万2,000円、3億4,513万1,186円、0円、39万814円。

12款諸支出金、1万円、1,916円、0円、8,084円。

13款予備費、176万6,000円、0円、0円、176万6,000円。

歳出合計、予算現額41億6,445万円、支出済額37億8,039万3,539円、翌年度繰越額3億4,498万5,000円、不用額3,907万1,461円。

歳入歳出差引残額8,120万1,251円。

令和3年9月8日提出、和束町長 堀忠雄。

続きまして、認定第2号をご説明申し上げます。

議案書をお願いいたします。

認定第2号

令和2年度和束町湯船財産区特別会計歳入歳出決算認定に

ついて

地方自治法第233条第3項の規定により、令和2年度和束町湯船財産区特別会計歳入歳出決算を、別紙監査委員の意見を付けて議会の認定に付する。

令和3年9月8日提出

和束町長 堀 忠雄

決算書の11ページ、12ページをお願いいたします。

令和2年度和束町湯船財産区特別会計歳入歳出決算。

特別会計につきましても、一般会計と同様にご説明申し上げます。

歳入でございます。

1 款財産収入、1,000円、6,092円、収入済額同額でございます。0円、0円。

3 款繰入金、386万9,000円、300万円、収入済額同額でございます。0円、0円。

4 款繰越金、50万円、29万6,316円、収入済額同額でございます。0円、0円。

5 款諸収入、55万円、18万7,599円、収入済額同額でございます。0円、0円。

歳入合計、予算現額492万円、調定額349万7円、収入済額349万7円、不納欠損額・収入未済額共に0円でございます。

めくっていただきまして、歳出でございます。

1 款管理会費、22万8,000円、1万5,000円、0円、21万3,000円。

2 款総務費、449万2,000円、313万8,809円、0円、135万3,191円。

4 款予備費、20万円、0円、0円、20万円。

歳出合計、予算現額492万円、支出済額315万3,809円、翌年度繰越額0円、不用額176万6,191円。

歳入歳出差引残額 33万6,198円。

令和3年9月8日提出、和束町長 堀忠雄。

続きまして、認定第3号をご説明申し上げます。

議案書をお願いいたします。

認定第3号

令和2年度和束町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定

について

地方自治法第233条第3項の規定により、令和2年度和束町国民健康保険特別会計歳入歳出決算を、別紙監査委員の意見を付けて議会の認定に付する。

令和3年9月8日提出

和束町長 堀 忠 雄

決算書の15ページ、16ページをお願いいたします。

令和2年度和束町国民健康保険特別会計（事業勘定）歳入歳出決算。

歳入でございます。

1 款国民健康保険税、1億1,363万2,000円、1億3,072万1,722円、1億1,420万3,438円、129万8,053円、1,522万231円。

2 款使用料及び手数料、6万1,000円、6万6,400円、収入済額同額でございます。0円、0円。

3 款国庫支出金、511万4,000円、調定額・収入済額同額でございます。0円、0円。

4 款府支出金、4億861万2,000円、調定額・収入済額同額でございます。0円、0円。

5 款財産収入、1,000円、693円、収入済額同額でございます。0円、0円。

6 款繰入金、4,276万円、4,275万9,536円、収入済額同額でございます。0円、0円。

7 款繰越金、2,125 万 6,000 円、4,623 万 7,828 円、収入済額同額で
ございます。0 円、0 円。

8 款諸収入、66 万 4,000 円、75 万 5,878 円、65 万 9,726 円、9 万
321 円、5,831 円。

歳入合計、予算現額 5 億 9,210 万円、調定額 6 億 3,426 万 8,057 円、収
入済額 6 億 1,765 万 3,621 円、不納欠損額 138 万 8,374 円、収入未済額
1,522 万 6,062 円。

めくっていただきまして、歳出でございます。

1 款総務費、264 万 8,000 円、249 万 5,263 円、0 円、15 万 2,73
7 円。

2 款保険給付費、3 億 7,991 万 3,000 円、3 億 7,989 万 4,475 円、0
円、1 万 8,525 円。

3 款国民健康保険事業費納付金、1 億 7,149 万 1,000 円、1 億 7,148 万
8,088 円、0 円、2,912 円。

4 款共同事業拠出金、1,000 円、45 円、0 円、955 円。

6 款保険事業費、1,076 万 3,000 円、929 万 9,854 円、0 円、146
万 3,146 円。

7 款基金積立金、2,000 万 1,000 円、2,000 万 693 円、0 円、307
円。

8 款公債費、全て 0 円でございます。

めくっていただきまして、9 款諸支出金、243 万 1,000 円、247 万 1,60
0 円、0 円、95 万 9,400 円。

10 款予備費、485 万 2,000 円、0 円、0 円、485 万 2,000 円。

歳出合計、予算現額 5 億 9,210 万円、支出済額 5 億 8,465 万 18 円、翌年度
繰越額 0 円、不用額 744 万 9,982 円。

歳入歳出差引残額 3,300 万 3,603 円。

令和 3 年 9 月 8 日提出、和束町長 堀忠雄。

めくっていただきまして、令和 2 年度和束町国民健康保険特別会計（直診勘定）歳入歳出決算。

歳入でございます。

1 款診療収入、4,761 万 9,000 円、4,905 万 7,773 円、収入済額同額でございます。0 円、0 円。

2 款使用料及び手数料、22 万 2,000 円、22 万 2,260 円、収入済額同額でございます。0 円、0 円。

4 款府支出金、100 万円、調定額・収入済額同額でございます。0 円、0 円。

5 款繰越金、240 万 1,000 円、240 万 1,900 円、収入済額同額でございます。0 円、0 円。

6 款繰入金、3,550 万円、調定額・収入済額同額でございます。0 円、0 円。

7 款財産収入、1,000 円、14 円、収入済額同額でございます。0 円、0 円。

8 款諸収入、708 万 7,000 円、709 万 8,328 円、収入済額同額でございます。0 円、0 円。

歳入合計、予算現額 9,383 万円、調定額 9,528 万 275 円、収入済額 9,528 万 275 円、不納欠損額 0 円、収入未済額 0 円。

めくっていただきまして、歳出でございます。

1 款総務費、6,679 万 7,000 円、6,665 万 3,251 円、0 円、14 万 3,749 円。

2 款医業費、2,683 万 3,000 円、2,519 万 6,398 円、0 円、163 万 6,602 円。

3 款公債費、全て 0 円でございます。

5 款予備費、20 万円、0 円、0 円、20 万円。

歳出合計、予算現額 9,383 万円、支出済額 9,184 万 9,649 円、翌年度繰越額 0 円、不用額 198 万 351 円。

歳入歳出差引残額 343 万 626 円。

令和 3 年 9 月 8 日提出、和束町長 堀忠雄。

続きまして、認定第 4 号をご説明申し上げます。

議案書をお願いいたします。

認定第 4 号

令和 2 年度和束町簡易水道事業特別会計歳入歳出決算認定 について

地方自治法第 233 条第 3 項の規定により、令和 2 年度和束町簡易水道事業特別会計歳入歳出決算を、別紙監査委員の意見を付けて議会の認定に付する。

令和 3 年 9 月 8 日提出

和束町長 堀 忠 雄

決算書の 25 ページ、26 ページをお願いいたします。

令和 2 年度和束町簡易水道事業特別会計歳入歳出決算。

歳入でございます。

1 款使用料及び手数料、6,256 万 7,000 円、7,739 万 5,136 円、6,505 万 9,015 円、0 円、1,233 万 6,121 円。

2 款分担金及び負担金、89 万 2,000 円、89 万 2,870 円、収入済額同額でございます。0 円、0 円。

3 款国庫支出金、5,661 万 7,000 円、調定額・収入済額同額でございます。0 円、0 円。

5 款財産収入、1,000 円、108 円、収入済額同額でございます。0 円、0 円。

6 款繰入金、7,719 万 6,000 円、7,719 万 5,050 円、収入済額同額でございます。0 円、0 円。

7 款繰越金、5 2 3 万 5, 0 0 0 円、5 2 3 万 5, 7 4 9 円、収入済額同額でございます。0 円、0 円。

8 款諸収入、5 5 5 万 5, 0 0 0 円、1, 0 2 5 万 1, 6 2 8 円、5 5 5 万 8 0 0 円、0 円、4 7 0 万 8 2 8 円。

9 款町債、1 億 7, 2 8 0 万円、1 億 6, 7 5 0 万円、収入済額同額でございます。0 円、0 円。

歳入合計、予算現額 3 億 8, 0 8 6 万 3, 0 0 0 円、調定額 3 億 9, 5 0 8 万 7, 5 4 1 円、収入済額 3 億 7, 8 0 5 万 5 9 2 円、不納欠損額 0 円、収入未済額 1, 7 0 3 万 6, 9 4 9 円。

めくっていただきまして、歳出でございます。

1 款総務費、6, 1 8 5 万 5, 0 0 0 円、5, 9 3 8 万 6, 4 7 2 円、0 円、2 4 6 万 8, 5 2 8 円。

2 款施設費、2 億 2, 2 8 0 万円、2 億 1, 8 7 2 万 2, 9 0 0 円、0 円、4 0 7 万 7, 1 0 0 円。

3 款公債費、9, 1 3 3 万 3, 0 0 0 円、9, 1 2 3 万 1, 2 9 7 円、0 円、1 0 万 1, 7 0 3 円。

4 款基金積立金、4 0 0 万 1, 0 0 0 円、4 0 0 万 1 0 8 円、0 円、8 9 2 円。

6 款予備費、8 7 万 4, 0 0 0 円、0 円、0 円、8 7 万 4, 0 0 0 円。

歳出合計、予算現額 3 億 8, 0 8 6 万 3, 0 0 0 円、支出済額 3 億 7, 3 3 4 万 7 7 7 円、翌年度繰越額 0 円、不用額 7 5 2 万 2, 2 2 3 円。

歳入歳出差引残額 4 7 0 万 9, 8 1 5 円。

令和 3 年 9 月 8 日提出、和束町長 堀忠雄。

続きまして、認定第 5 号をご説明申し上げます。

議案書をお願いいたします。

認定第 5 号

令和２年度和束町下水道事業特別会計歳入歳出決算認定に
ついて

地方自治法第２３３条第３項の規定により、令和２年度和束町下水道事業特別会計歳入歳出決算を、別紙監査委員の意見を付けて議会の認定に付する。

令和３年９月８日提出

和束町長 堀 忠 雄

決算書の２９ページ、３０ページをお願いいたします。

令和２年度和束町下水道事業特別会計歳入歳出決算。

歳入でございます。

１款分担金及び負担金、１８万円、７８万円、１８万円、０円、６０万円。

２款使用料及び手数料、３,００７万４,０００円、３,６４７万２,９３７円、３,１１７万５,８５２円、０円、５２９万７,０８５円。

３款国庫支出金、１,５００万円、５６０万円、収入済額同額でございます。０円、０円。

５款繰入金、１億６,６３２万５,０００円、調定額・収入済額同額でございます。０円、０円。

６款繰越金、２０７万１,０００円、２０７万１,４９５円、収入済額同額でございます。０円、０円。

７款諸収入、全て０円でございます。

８款町債、６,４５０万円、６,３９０万円、収入済額同額でございます。０円、０円。

歳入合計、予算現額２億７,８１５万円、調定額２億７,５１４万９,４３２円、収入済額２億６,９２５万２,３４７円、不納欠損額０円、収入未済額５８９万７,０８５円。

めくっていただきまして、歳出でございます。

1 款総務費、4,387 万円、2,345 万4,561 円、2,030 万円、11 万5,439 円。

2 款管理費、6,224 万円、6,112 万8,044 円、0 円、111 万1,956 円。

4 款公債費、1 億7,158 万9,000 円、1 億7,158 万7,323 円、0 円、1,677 円。

5 款予備費、45 万1,000 円、0 円、0 円、45 万1,000 円。

歳出合計、予算現額2 億7,815 万円、支出済額2 億5,616 万9,928 円、翌年度繰越額2,030 万円、不用額168 万72 円。

歳入歳出差引残額1,308 万2,419 円。

令和3 年9 月8 日提出、和束町長 堀忠雄。

続きまして、認定第6 号をご説明申し上げます。

議案書をお願いいたします。

認定第6 号

令和2 年度和束町介護保険特別会計歳入歳出決算認定に

ついて

地方自治法第233 条第3 項の規定により、令和2 年度和束町介護保険特別会計歳入歳出決算を、別紙監査委員の意見を付けて議会の認定に付する。

令和3 年9 月8 日提出

和束町長 堀 忠 雄

決算書の33 ページ、34 ページをお願いいたします。

令和2 年度和束町介護保険特別会計（保険事業勘定）歳入歳出決算。

歳入でございます。

1 款保険料、1 億1,720 万6,000 円、1 億2,170 万8,749 円、1 億1,824 万6,779 円、26 万3,060 円、319 万8,910 円。

2 款使用料及び手数料、全て 0 円でございます。

3 款国庫支出金、1 億 6,960 万 8,000 円、1 億 6,961 万 139 円、収入
済額同額でございます。0 円、0 円。

4 款支払基金交付金、1 億 7,770 万 4,000 円、調定額・収入済額同額でござ
います。0 円、0 円。

5 款府支出金、1 億 489 万 9,000 円、1 億 490 万 562 円、収入済額同額
でございます。0 円、0 円。

6 款財産収入、1,000 円、258 円、収入済額同額でございます。0 円、0 円。

7 款繰入金、1 億 639 万 5,000 円、1 億 567 万 4,937 円、収入済額同額
でございます。0 円、0 円。

8 款諸収入、0 円、28 円、収入済額同額でございます。0 円、0 円。

9 款繰越金、1,318 万 7,000 円、1,318 万 7,482 円、収入済額同額で
ございます。0 円、0 円。

めくっていただきまして、歳入合計、予算現額 6 億 8,900 万円、調定額 6 億 9,
278 万 6,155 円、収入済額 6 億 8,932 万 4,185 円、不納欠損額 26 万 3,
060 円、収入未済額 319 万 8,910 円。

めくっていただきまして、歳出でございます。

1 款総務費、760 万 1,000 円、736 万 596 円、0 円、24 万 404 円。

2 款保険給付費、6 億 4,257 万 3,000 円、6 億 2,523 万 3,976 円、0
円、1,733 万 9,024 円。

4 款地域支援事業費、3,035 万 1,000 円、2,991 万 6,375 円、0 円、
43 万 4,625 円。

5 款基金積立金、1,000 円、258 円、0 円、742 円。

6 款公債費、全て 0 円でございます。

7 款諸支出金、847 万 4,000 円、847 万 2,851 円、0 円、1,149 円。

めくっていただきまして、８款予備費、全て０円でございます。

歳出合計、予算現額６億８，９００万円、支出済額６億７，０９８万４，０５６円、翌年度繰越額０円、不用額１，８０１万５，９４４円。

歳入歳出差引残額１，８３４万１２９円。

令和３年９月８日提出、和束町長 堀忠雄。

めくっていただきまして、令和２年度和束町介護保険特別会計（サービス事業勘定）歳入歳出決算。

歳入でございます。

１款サービス収入、３０８万円、３０８万８７０円、収入済額同額でございます。０円、０円。

２款繰入金、２０８万４，０００円、調定額・収入済額同額でございます。０円、０円。

３款繰越金、３６万９，０００円、３６万９，１３１円、収入済額同額でございます。０円、０円。

５款府支出金、２６万７，０００円、調定額・収入済額同額でございます。０円、０円。

歳入合計、予算現額５８０万、調定額５８０万１，００１円、収入済額５８０万１，００１円、不納欠損額０円、収入未済額０円。

めくっていただきまして、歳出でございます。

１款総務費、４４３万円、４４１万２，２２９円、０円、１万７，７７１円。

２款事業費、１１８万円、１１７万９，０６３円、０円、９３７円。

３款予備費、１９万円、０円、０円、１９万円。

歳出合計、予算現額５８０万円、支出済額５５９万１，２９２円、翌年度繰越額０円、不用額２０万８，７０８円。

歳入歳出差引残額２０万９，７０９円。

令和３年９月８日提出、和束町長 堀忠雄。

続きまして、認定第７号をご説明申し上げます。

議案書をお願いいたします。

認定第７号

令和２年度和束町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定 について

地方自治法第２３３条第３項の規定により、令和２年度和束町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算を別紙監査委員の意見を付けて議会の認定に付する。

令和３年９月８日提出

和束町長 堀 忠 雄

決算書の４５ページ、４６ページをお願いいたします。

令和２年度和束町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算。

歳入でございます。

１款保険料、４，６３８万３，０００円、４，８８６万６，１５０円、４，６４８万９，
０８１円、０円、２３７万７，０６９円。

２款使用料及び手数料、全て０円でございます。

３款繰入金、２，６０３万４，０００円、２，６０３万３，３２１円、収入済額同額で
ございます。０円、０円。

４款繰越金、３５万３，０００円、３５万３，３７１円、収入済額同額でございます。
０円、０円。

５款諸収入、２７８万円、２７８万２，３９６円、収入済額同額でございます。０
円、０円。

歳入合計、予算現額７，５５５万円、調定額７，８０３万５，２３８円、収入済額７，
５６５万８，１６９円、不納欠損額０円、収入未済額２３７万７，０６９円。

めくっていただきまして、歳出でございます。

1 款総務費、5 9 万 8, 0 0 0 円、5 8 万 6, 0 1 5 円、0 円、1 万 1, 9 8 5 円。

2 款後期高齢者医療広域連合納付金、約 6, 9 9 1 万円、6, 9 9 0 万 9, 8 7 3 円、0 円、1 2 7 円。

3 款保険事業費、4 6 2 万 8, 0 0 0 円、4 6 1 万 6, 8 5 7 円、0 円、1 万 1, 1 4 3 円。

4 款諸支出金、2 0 万 5, 0 0 0 円、2 0 万 4, 8 0 3 円、0 円、1 9 7 円。

5 款予備費、2 0 万 9, 0 0 0 円、0 円、0 円、2 0 万 9, 0 0 0 円。

歳出合計、予算現額 7, 5 5 5 万円、支出済額 7, 5 3 1 万 7, 5 4 8 円、翌年度繰越額 0 円、不用額 2 3 万 2, 4 5 2 円。

歳入歳出差引残額 3 4 万 6 2 1 円。

令和 3 年 9 月 8 日 提出

和束町長 堀 忠 雄

以上をもちまして、決算書の説明を終わらせていただきます。

なお、事項別明細書につきましては、各担当課長より説明させていただきます。

○委員長（岡田 勇君）

会議の途中ですが、ただいまから午後 1 時 3 0 分まで休憩します。

休憩（午前 1 1 時 4 1 分～午後 1 時 3 0 分）

○委員長（岡田 勇君）

休憩前に引き続き会議を開き、説明を続けます。

総務課長。

○総務課長（岡田博之君）

それでは、私のほうからは、令和 2 年度歳入歳出決算事項別明細書に基づき説明を続けさせていただきます。

最初に、令和 2 年度和束町一般会計歳入歳出決算事項別明細書でございます。

まず、歳入のほうからでございますが、委員長からもありましたように、主立った

ものの説明とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

1 ページ、2 ページをお願いいたします。

1 款町税、1 項町民税、1 目個人、収入済額 1 億 3,079 万 1,665 円、不納欠損額が 16 万 6,270 円、収入未済額が 330 万 4,269 円でございます。

このうち 1 節現年度課税分として 1 億 2,957 万 9,624 円歳入をしております。内訳といたしまして、均等割 593 万 4,595 円、所得割 1 億 2,364 万 5,029 円でございます。

同款、2 項固定資産税、1 目固定資産税でございます。収入済額が 1 億 8,987 万 7,057 円。

このうち 1 節現年課税分といたしまして 1 億 8,798 万 1,807 円、不納欠損額が 7 万 1,600 円、収入未済額が 231 万 1,093 円。収入の内訳といたしまして、土地で 5,041 万 6,700 円、家屋で 7,628 万 2,700 円、償却資産で 6,128 万 2,407 円の歳入をしておるところでございます。

同款、3 項軽自動車税、2 目種別割でございます。収入済額が 2,012 万 8,800 円、不納欠損額が 11 万 700 円、収入未済額が 101 万 3,769 円でございます。このうち現年課税分といたしまして、収入済額が 1,991 万 700 円、収入未済額が 34 万 5,700 円でございます。

続きまして、少しページを飛ばさせていただきます。5 ページをお願いいたします。

7 款地方消費税交付金、1 項地方消費税交付金、1 目地方消費税交付金で、収入済額が 7,373 万 6,000 円でございます。

続きまして、7 ページをお願いいたします。

1 1 款地方交付税、1 項地方交付税、1 目地方交付税、収入済額が 17 億 3,921 万 6,000 円で、このうち普通交付税といたしまして 15 億 5,316 万 5,000 円、また特別交付税として 1 億 8,605 万 1,000 円の歳入をしているところでございます。

9 ページをお願いいたします。

1 3 款分担金及び負担金、2 項負担金、1 目総務費負担金でございます。収入済額が6,669万1,452円。

1 節総務管理費負担金として同額を歳入しております。内訳といたしまして、相楽東部広域連合職員人件費負担金6,108万3,200円、京都地方税機構派遣職員人件費負担金560万8,252円を歳入しております。

少しページを飛ばさせていただきます。15 ページをお願いしたいと思います。

1 5 款国庫支出金、1 項国庫負担金、1 目民生費国庫負担金で収入済額が8,636万9,150円でございます。

このうち1 節社会福祉費負担金で6,375万6,485円を、内訳といたしまして、障害者自立支援給付費負担金4,900万円、めくっていただきまして、54 節児童手当国庫負担金2,261万2,665円、児童手当に係るものでございます。

また、同款、同項、3 目災害復旧費国庫負担金で2,146万3,000円の歳入をしております。これにつきましては、道路橋りょう災害復旧費負担金でございます。

同款、2 項国庫補助金、1 目総務費国庫補助金で収入済額が4 億3,036万1,812円。

このうち1 節総務管理費補助金で4 億1,976万3,812円。主な内訳といたしまして、22 ページになりますが、特別定額給付金給付事業費補助金3 億8,120万円、また、新型コロナ対応地方創生臨時交付金（経営支援補助金）として1,500万円が主な内容でございます。

23 ページでございます。

同款、同項、2 目民生費国庫補助金でございますが、4,943万910円の収入済額でございます。

主なものにつきましては、26 ページの1 節社会福祉費補助金で3,512万9,000円の歳入で、このうち新型コロナ対応地方創生臨時交付金（生活支援給付金）と

して3,355万4,000円を歳入させていただいております。

29ページ、30ページをお願いいたします。

同款、同項、3目衛生費国庫補助金で収入済額が2,069万1,000円。

1節保健衛生費補助金で、同額の収入済でございます。主なものといたしまして、新型コロナ対応地方創生臨時交付金（水道料金軽減分）といたしまして1,669万3,000円の歳入をさせていただいております。

31ページ、32ページをお願いいたします。

同款、同項、4目土木費国庫補助金で収入済額が5,246万5,000円。

3節道路橋りょう費補助金といたしまして、内訳が橋りょう長寿命化修繕計画補助金2,240万7,000円、社会資本整備総合交付金（道路分）で1,780万6,000円、道路局所管補助金（橋りょう分）といたしまして1,225万2,000円が主なものでございます。

同款、同項、5目教育費国庫補助金で、収入済額が3,513万6,000円でございます。

3節教育総務費補助金といたしまして同額を収入済ということで、内訳といたしまして、新型コロナ対応地方創生臨時交付金（GIGAスクール構想）に伴うもので3,263万4,000円が主なものでございます。

35ページ、36ページをお願いいたします。

同款、同項、7目農林業費国庫補助金、収入済額が2,925万円。

内訳といたしまして、1節農業費国庫補助金で2,404万7,000円を、のうち新型コロナ対応地方創生臨時交付金（茶業経営支援給付金）として2,104万7,000円を、同じく、農産物直売所整備として300万円歳入をさせていただいております。

同款、同項、8目商工費国庫補助金で収入済額が3,984万8,258円。1節商工費補助金で同額を。

主なものといたしまして、３７ページ、３８ページでございますが、新型コロナ対応地方創生臨時交付金（生活応援商品券）２，１９１万２，０００円、また４０ページでございますが、新型コロナ対応地方創生臨時交付金（事業者応援給付金）３８３万円が主なものでございます。

４１ページ、４２ページをお願いいたします。

１６款府支出金、１項府負担金、１目民生費府負担金で７，０６１万５，４０５円の収入済額でございます。

１節社会福祉費負担金で４，９６５万４，７５０円を、この内訳といたしまして、国庫基盤安定負担金２，０８５万６，９６６円、障害者自立支援給付費負担金２，４７２万９，０５３円を、また、３節老人福祉費負担金で収入済額が１，５７３万４，４９０円、これにつきましては後期高齢者医療保険基盤安定負担金拠出金として１，５７３万４，４９０円歳入をさせていただいております。

４３ページ、４４ページをお願いいたします。

同款、２項府補助金、１目総務費府補助金で２，３１１万９，０００円の収入済額でございます。

このうち１節総務管理費補助金で１，９５７万２，０００円を、主な内訳といたしまして、きょうと連携交付金ということで何事業かございますが、計１，６３７万２，０００円歳入をさせていただいております。

４７ページ、４８ページをお願いいたします。

同款、同項、２目民生費府補助金で、収入済額が３，９０５万８，３１９円、１節社会福祉費補助金で２，８６７万７，２１９円を歳入しております。

このうち主なものといたしまして、隣保館運営等事業費補助金７２１万６，０００円、おめくりいただきまして、地域密着型サービス等整備助成事業補助金９７０万２，０００円が主なものでございます。

また、２節児童福祉費補助金で収入済額が１，０３８万１，１００円、このうち福祉

医療給付子育て支援で259万6,000円を、また子ども・子育て支援交付金46万3,000円が主な内容でございます。

53ページ、54ページをお願いいたします。

同款、同項、4目農林業費府補助金で、収入済額が3,238万346円でございます。

このうち1節農業費補助金で2,350万7,646円を、主なものといたしまして、56ページでございますが、農業次世代人材投資資金675万円、またきょうと連携交付金ということで計908万7,000円の歳入をさせていただいているところでございます。

少しページが飛びます。69ページ、70ページまでお願いいたします。

19款繰入金、2項基金繰入金、2目減債基金繰入金で、収入済額が4,011万2,000円。

1節減債基金繰入金ということで、同額を減債基金から繰入れをさせていただいております。

73ページ、74ページをお願いいたします。

20款繰越金、1項繰越金、1目繰越金で、収入済額が8,130万245円でございます。

これにつきましては、1節前年度繰越金ということで、内訳としまして純繰越金が6,301万8,245円、事業繰越金が1,828万2,000円でございます。

75ページ、76ページをお願いいたします。

21款諸収入、4項雑入、1目雑入で、収入済額が4,283万2,906円でございます。

このうち2節雑入ということで3,808万2,906円を、このうちスポーツ振興くじ助成金で905万4,000円、また、78ページでございますが、ごみ袋代408万7,500円、京都府市町村振興協会市町村等交付金で397万5,709円、

さらに 80 ページでございますが、雇用促進協議会事務費負担金といたしまして 1, 214 万 9,402 円を歳入させていただいております。

22 款町債、1 項町債、1 目総務債、81 ページ、82 ページでございます。収入済額が 9,690 万円、1 節総務管理債で同額を。

内訳といたしまして過疎対策事業債（路線バス維持管理）に係る起債で 2,380 万円を、緊急防災減災事業債（体験交流センター耐震化事業）に係る公債費で 6,880 万円を歳入させていただいております。

同款、同項、3 目衛生債で、収入済額が 4,790 万円でございます。

この内訳といたしまして、1 節清掃債ということで過疎対策事業債でございますが、相楽郡広域事務組合大規模改修負担金 4,790 万円となっております。

同款、同項、4 目農林業債で、収入済額が 2,600 万円でございます。

これにつきましては、1 節農業債ということで、過疎対策事業債（農産物直売所整備事業）1,790 万円を歳入させていただいております。

84 ページでお願いいたします。

併せまして、農林業債で過疎対策事業債（駐車場舗装事業）といたしまして 810 万円の歳入でございます。

同款、同項、6 目土木債で、収入済額が 6,070 万円でございます。

これにつきましては、1 節道路橋りょう債ということで同額を歳入し、主な内訳といたしまして、過疎対策事業債（道路拡幅改良事業）1,160 万円、過疎対策事業債（町道整備事業）で 1,760 万円、橋りょう補修事業といたしまして 990 万円を歳入させていただいております。

87 ページ、88 ページをお願いいたします。

同款、同項、10 目臨時財政対策債ということで、収入済額 5,930 万円でございます。1 節臨時財政対策債ということで 5,930 万円の歳入でございます。

歳入合計につきましては、予算現額が 41 億 6,445 万円、収入済額が 38 億 6,

159万4,790円、不納欠損額が118万5,527円、収入未済額が3,895万7,664円となっております。

続きまして、89ページ、90ページでございます。

歳出でございますが、こちらにつきましても主な内容のみ説明とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

1款議会費、1項議会費、1目議会費、支出済額が5,377万2,945円でございます。

主なものといたしまして、1節報酬、議員報酬2,100万円、あと職員人件費となっております。

91ページ、92ページをお願いいたします。

2款総務費、1項総務管理費、1目一般管理費で支出済額が3億5,139万5,132円。

主な支出につきましては、職員人件費、特別職の人件費並びに96ページでございますが、12節委託料、支出済額が2,260万1,515円。内訳といたしまして、定期清掃、宿日直業務委託料468万9,916円、和束町例規集編集委託料が401万5,000円、電算ネットワーク保守委託料で653万8,400円を支出させていただいております。

また、98ページでございますが、18節負担金補助及び交付金ということで、支出済額が4,392万7,212円でございます。このうち京都府町村会情報センター負担金で1,984万5,837円を、また相楽東部広域連合負担金として1,935万円を支出させていただいております。

99ページ、100ページをお願いいたします。

同款、同項、2目企画費で、支出済額が3,915万3,649円でございます。

主な支出の内訳につきましては、1節報酬ということで569万3,563円、これにつきましては、地域おこし協力隊の報酬でございます。

また、下段の１２節委託料で１，８７７万２５４円を支出しております。主なものにつきましては１０２ページでございますが、スマートワーク・イン・レジデンス事業委託料３００万円、和束町文化的景観調査研究委託料２５０万円、移住・定住促進委託料２５８万２，０００円、おもてなし茶室デザイン製作業務委託料４００万円が主な内容でございます。

続きまして、１０３ページ、１０４ページでございます。

同款、同項、３目文書広報費で、支出済額が２，２５２万５，６２８円。

主なものにつきましては、職員人件費並びに１０６ページでございますが、１２節委託料１，１５８万９，０５０円。この内訳といたしまして、ホームページ構築委託料７９９万３，３７０円、また茶源郷行政情報配信システム保守業務委託料２２９万９，０００円が主な内容でございます。

同款、同項、４目活性化対策費で、支出済額が１億４５６万４，３０２円でございます。

主なものといたしまして、１０８ページでございますが、１４節工事請負費７，３０５万９，８００円を支出させていただいております。内訳といたしまして、体験交流センター耐震補強工事が６，４９４万２，６８１円、同じく、体験交流センターの改修工事が５７５万４，３１９円ということで支出をさせていただいております。

１８節負担金補助及び交付金で、支出済額が１，５００万円でございます。これにつきましては、指定管理者経営支援事業補助金ということで、１，５００万円支出をさせていただいております。

１０９ページ、１１０ページをお願いいたします。

同款、同項、７目財産管理費で、支出済額が９，８９０万２，４０７円でございます。

主なものにつきましては、２４節積立金ということで９，５４２万３，３３８円を、この内訳といたしまして、財政調整基金積立金に３，１５３万２，９８９円、減債基金積立金に６，３８９万３４９円を支出させていただいております。

１１１ページ、１１２ページをお願いします。

同款、同項、１２目交通対策費で支出済額が２，４８０万９，３０３円でございます。

主なものにつきましては、１８節負担金補助及び交付金で２，４７８万１，２４３円を、このうち路線バス運行維持補助金として２，３８０万３，３２３円を支出させていただいております。

同款、同項、１５目特別定額給付費として支出済額が３億８，３２６万４，９１４円でございます。

主なものにつきましては、１８節負担金補助及び交付金ということで３億８，２００万３，７００円を支出させていただいております。このうち特別定額給付費としてお支払いさせていただいているのが３億８，１２０万円でございます。

同款、２項徴税費、１目税務総務費で３，０２６万９，２９５円の支出をさせていただいております。

主な支出の内訳につきましては、職員人件費、１１６ページの１８節負担金補助及び交付金で５３１万３，９３５円を、このうち京都地方税機構負担金として５１７万４，４１５円を支払いさせていただいております。

少しページを飛ばさせていただきます。１２５ページ、１２６ページをお願いいたします。

３款民生費、１項社会福祉費、１目社会福祉総務費で３億５，０４３万８，８６１円の支出をさせていただいております。

主な支出につきましては、職員人件費並びに１３０ページでございますが、１８節負担金補助及び交付金として５，５２８万８１５円を、このうち社協職員設置補助金で１，８１０万４，０００円を、また１３２ページでございますが、子育て世帯等生活支援給付金で３，３００万円を支出させていただいております。

１９節扶助費では支出済額が１億１，９７８万６，８６０円。このうち主なものが障害者自立支援ということで９，７９５万４，９６５円を支出しております。

また、２４節の積立金で支出済額が６，００１万７，０４２円でございます。これにつきましては、地域福祉基金積立金として支出をさせていただいております。

２７節繰出金で支出済額が４，５７５万９，５３６円を、主なものといたしまして国保基盤安定等繰出金で４，２７５万９，５３６円を支出させていただいております。

１３３ページ、１３４ページをお願いいたします

同款、同項、３目老人福祉費で、支出済額が２億２，４２８万１，１００円でございます。

主なものにつきましては、１８節負担金補助及び交付金ということで８，４５９万９，９７４円を支出しております。１３６ページでございますが、このうち後期高齢者療養給付費負担金で６，１４９万６，４１１円を、また山城病院組合負担金、介護老人保健施設事業として４１７万７，０００円を、簡易陰圧装置設置経費支援補助金として９７０万２，０００円ということで、これにつきましては特別養護老人ホームわらくに対して補助をしている部分でございます。また、後期高齢者療養給付費負担金（過年度精算分）として８１４万４，９１７円を支出しております。

２７節繰出金で支出済額が１億２，６２９万２，２５８円でございます。内訳といたしまして、介護保険事業勘定繰出金９，８１７万４，９３７円を、また介護保険サービス勘定繰出金として２０８万４，０００円を、後期高齢者医療特別会計繰出金として２，６０３万３，３２１円を支出させていただいております。

１３７ページ、１３８ページをお願いします。

同款、同項、６目人権ふれあいセンター費でございます。支出済額が２，２３５万１，８０９円、主な支出の内訳といたしましては、職員人件費でございます。

１４３ページ、１４４ページをお願いします。

同款、２項児童福祉費、１目児童福祉総務費で、支出済額が７，４７３万９，９１９円でございます。

主な支出につきましては、職員人件費並びに１４６ページでございますが、１９節

扶助費で4,284万5,430円を、このうち子育て支援医療、町単独分として603万5,445円を、また児童手当として3,306万5,000円を支出させていただいております。24節積立金で支出済額が1,890万88円ということで、これにつきましては、すこやかエンジェル基金積立金として支出をさせていただいているところでございます。

同款、同項、3目保育所費で、支出済額が8,402万3,942円でございます。

主なものにつきましては、職員人件費、会計年度任用職員の人件費となっているところでございます。

少しページを飛ばさせていただきます。155ページ、156ページをお願いいたします。

4款衛生費、1項保健衛生費、1目保健衛生総務費で、7,503万8,691円の支出をさせていただきました。主な内訳といたしまして、18節負担金補助及び交付金で3,071万1,000円を、このうち山城病院組合負担金として2,913万1,000円。

また、158ページでございますが、27節繰出金ということで3,550万円を支出させていただいております。これにつきましては、国保直診勘定の繰出金でございます。

同款、同項、2目予防費で支出済額が2,062万5,132円。

主な内訳といたしまして12節委託料で1,816万7,877円を、このうち、がん診査等検診委託料で684万8,439円を、予防接種等委託料で1,077万5,091円を支出させていただいております。

159ページ、160ページをお願いいたします。

同款、同項、4目環境衛生費で、2億4,893万2,716円支出をさせていただいております。

主な内訳といたしまして、162ページでございますが、27節繰出金ということ

で２億４，３５２万５０円を支出させていただいております。内訳といたしまして、下水道事業特別会計繰出金１億６，６３２万５，０００円、簡易水道事業特別会計繰出金６，０５０万２，０００円、簡易水道事業特別会計繰出金（水道料金軽減分）として１，６６９万３，０５０円を支出させていただいております。

１６３ページ、１６４ページをお願いします。

同款、２項清掃費、１目じん芥処理費で、支出済額が１億７９０万４，５１２円でございます。

主なものといたしまして、１８節負担金補助及び交付金で１億７１５万１，０００円支出しております。

これにつきましては、相楽東部広域連合負担金となっているところでございます。

同款、同項、２目し尿処理費で７，８４４万５７６円の支出をさせていただいております。

主なものといたしまして、１８節負担金補助及び交付金で７，８１５万８，６１８円を、このうち相楽郡広域事務組合分担金として６，８２４万３，７２２円を、また、同じく、１６６ページでございますが、相楽郡広域事務組合負担金（し尿券分）として８９４万４，８９６円を支出させていただきました。

続いて、５款農林業費、１項農業費、２目農業総務費で３，９２２万９，０４０円支出をさせていただいております。

主な支出内容につきましては、職員人件費となっております。

また、同款、同項、３目農業振興費で３，１０４万２，０１０円を。

このうち１７０ページでございますが、１２節委託料で１，６７８万９，０００円。これにつきましては、和束茶を活かした新産業創出事業委託料として支出をさせていただいております。

１８節負担金補助及び交付金では、１，３４８万２，２４３円の支出でございます。主なものといたしましては、中山間地域等直接支払補助金３７２万９，８２６円、ま

た農業次世代人材投資資金給付事業負担金として６７５万円を支出しております。

同款、同項、４目茶業振興費で支出済額が２，３７８万８，５８３円でございます。

主なものにつきましては、１７２ページでございますが、１８節負担金補助及び交付金ということで、２，３４２万２，４３０円、このうち茶業経営支援給付金として２，１００万円を支出させていただいております。

同款、同項、６目農業施設管理費で、支出済額が３，１７９万６，２６３円でございます。

主なものといたしまして、１４節工事請負費２，４２７万３，３００円、このうち駐車場舗装改良工事で８１８万７，３００円を、また農産物直売所新築工事として１，６０８万６，０００円を支出させていただいております。

１７３ページ、１７４ページをお願いします。

同款、２項林業費、２目林業振興費でございます。支出済額が２，９００万６，２８５円。

主な内容につきましては、１７６ページ、１２節でございますが、委託料として１，２５６万６，３５３円の支出でございます。このうち松くい虫防除委託料で４１８万３，６２８円を、また豊かな森を育てる府民税交付金事業委託料として２１０万７，５８５円を支出しております。

１７７ページ、１７８ページをお願いします。

６款商工費、１項商工費、１目商工振興費で、支出済額が５，００３万５，９３１円でございます。

主なものといたしまして、１８節負担金補助及び交付金で４，７７３万７，８６０円を支出しております。このうち和束町雇用促進事務費負担金として１，２５２万４，０００円を、また、茶源郷和束生活応援商品券補助金として２，１３９万４，８６０円の支出をさせていただいております。

同款、同項、２目観光費で、６，０４４万７，４５０円の支出をさせていただいてお

ります。

主なものにつきましては、１８０ページになりますが、１２節委託料で３，４３２万３，３００円を、このうちマウンテンバイク推進事業委託料で６０９万７，３００円、観光案内所管理運営委託料で５２１万円、広域観光推進業務委託料で７００万円、茶文化情報発信インバウンド観光事業委託料で４６０万円、マウンテンバイクランド指定管理委託料で３７０万円を支出させていただいております。

１８１ページ、１８２ページでございますが、また、１４節工事請負費で１，４６７万３，６２９円支出をさせていただいております。これにつきましては、湯船マウンテンバイクランドの整備工事１，４２８万８，２００円が主な内容でございます。

１８３ページ、１８４ページをお願いいたします。

７款土木費、１項土木管理費、１目土木総務費で、３，８４３万４８２円の支出済額でございます。

主な内訳につきましては、職員人件費となっております。

１８７ページ、１８８ページでございます。

同款、２項道路橋りょう費の３目道路新設改良費で、１億２，０５８万９，３２２円の支出をさせていただいております。

主な内容につきましては、１２節委託料で２，４１９万２，３００円を、このうち橋りょう点検調査業務委託料として１，０１５万３，０００円、また、測量設計業務委託料として１，４０３万９，３００円を支出しております。

また、１４節工事請負費で９，５７１万６，５００円の支出でございます。

続いて、１９１ページ、１９２ページをお願いいたします。

８款消防費、１項消防費、１目常備消防費で、１億４，２６０万３，０００円支出をさせていただいております。

これにつきましては、１８節負担金補助及び交付金ということで、相楽中部消防組合負担金となっております。

次に、同款、同項、2目非常備消防費として2,029万1,246円を支出させていただきます。

主な支出につきましては、1節報酬442万7,500円、このうち消防団員報酬として438万1,500円を、また7節報償費で477万7,200円を、これにつきましては消防団員の退職報償金の積立金になりますが、475万円、また18節負担金補助及び交付金ということで809万5,446円の支出がございます。主な内訳といたしまして、公務災害補償等の共済掛金583万7,446円、消防団運営経費補助金が205万7,000円となっております。

193ページ、194ページをお願いいたします。

同款、同項、5目災害対策費で、3,467万7,582円支出をさせていただきます。

主なものにつきましては、12節委託料ということで835万1,200円を、このうち防災行政無線保守委託料で717万4,200円を支出し、また14節工事請負費で1,703万9,000円、これは和東小学校マンホールトイレの工事請負費1,703万9,000円でございます。

次に、195ページ、196ページでございますが、9款教育費、1項教育総務費、1目教育委員会費で、支出済額が2億2,441万円でございます。

これにつきましては、相楽東部広域連合負担金となっております。

10款災害復旧費、2項公共土木施設災害復旧費、1目道路橋りょう施設災害復旧費で3,629万950円の支出をさせていただきます。

主なものにつきましては、198ページでございますが、14節工事請負費ということで3,380万2,850円を、これについては道路橋りょう災害復旧工事費となっております。

11款公債費、1項公債費、1目元金で、3億3,490万4,154円支出をさせていただきます。

これにつきましては、２２節償還金利子及び割引料ということで、町債償還元金３億３，０９０万４，１５４円でございます。

また、同款、同項、２目利子ということで、１，０２２万７，０３２円の支出を、これにつきましても２２節償還金利子及び割引料ということで、主なものにつきましては町債償還利子１，０１１万６，１３２円となっているところでございます。

歳出合計につきましては、予算現額４１億６，４４５万円、支出済額３７億８，０３９万３，５３９円、翌年度繰越額３億４，４９８万５，０００円、不用額３，９０７万１，４６１円、以上となっております。

次に、２００ページをお願いいたします。

実質収支に関する調書でございます。

区分、金額の順に説明を申し上げます。

１．歳入総額３８億６，１５９万４，７９０円

２．歳出総額３７億８，０３９万３，５３９円

３．歳入歳出差引額８，１２０万１，２５１円

４．翌年度へ繰り越すべき財源

（１）継続費通次繰越額 ０円

（２）繰越明許費繰越額 ３，２４４万９，０００円

（３）事故繰越し繰越額 ５６５万４，０００円

計 ３，８１０万３，０００円

５．実質収支額４，３０９万８，２５１円

６．実質収支額のうち地方自治法第２３３条の２の規定による基金繰入額、０円となっております。

なお、以下、財産に関する調を載せさせていただいておりますので、また、お目通しのほうをよろしく申し上げます。

続きまして、２０９ページ、２１０ページをお願いいたします。

令和２年度和東町湯船財産区特別会計 歳入歳出決算事項別明細書でございます。

歳入でございますが、こちらにつきましても、主立った内容のみ説明とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

３款繰入金、１項基金繰入金、１目財政調整基金繰入金、収入済額が３００万円でございます。

これにつきましては、湯船財産区財政調整基金のほうから３００万円繰入れをさせていただいております。

２１１ページ、２１２ページでございますが、歳入合計、予算現額４９２万円、収入済額３４９万７円、不納欠損額、収入未済額は０円ということでよろしくお願いいたします。

２１３ページ、２１４ページ、続きまして、湯船財産区特別会計の歳出でございます。

こちらにつきましても、主な内容のみの説明とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

２款総務費、１項総務管理費、１目一般管理費、支出済額が２９３万９,２７２円、これにつきましては、財産区の職員人件費の支出となっております。

以上、歳出合計につきましては、２１５ページ、２１６ページでございますが、予算現額４９２万円、支出済額３１５万３,８０９円、翌年度繰越額０円、不用額１７万６,１９１円でございます。

続きまして、２１８ページ、実質収支に関する調書でございます。

区分、金額の順に説明を申し上げます。

- １．歳入総額３４９万７円
- ２．歳出総額３１５万３,８０９円
- ３．歳入歳出差引額３３万６,１９８円
- ４．翌年度へ繰り越すべき財源

(1) 継続費通次繰越額 0 円

(2) 繰越明許費繰越額 0 円

(3) 事故繰越し繰越額 0 円

計につきましても 0 円でございます。

5. 実質収支額 33 万 6,198 円

6. 実質収支額のうち地方自治法第 233 条の 2 の規定による基金繰入金、0 円となっております。

219 ページ以降、財産に関する調を載せております。また、お目通しのほうをよろしくお願いいたします。

なお、他の特別会計につきましては担当課長から説明申し上げますので、よろしくお願いいたします。

○委員長（岡田 勇君）

税住民課長。

○税住民課長（吉田敏江君）

では、続きまして、認定第 3 号 令和 2 年度和束町国民健康保険特別会計（事業勘定）につきまして、歳入歳出決算書事項別明細書により説明をさせていただきます。

225 ページ、226 ページをお願いいたします。

説明は款、項、目及び収入済額について主なもののみとさせていただきます。

1 款国民健康保険税、1 項国民健康保険税、1 目一般被保険者国民健康保険税、歳入済額が 1 億 1,420 万 3,438 円でございます。不納欠損額が 129 万 8,053 円、また収入未済額が 1,522 万 231 円でございます。

主なものとしたしまして、1 節医療給付費分現年課税分、収入済額が 7,871 万 7,124 円、また 2 節後期高齢者支援金分現年課税分、収入済額が 2,408 万 6,173 円、また 3 節介護納付金分現年課税分、収入済額が 684 万 7,404 円でございます。

ページをおめくりいただきまして、２２７ページ、２２８ページをお願いいたします。

３款国庫支出金、２項国庫補助金、１目災害等臨時特例補助金、収入済額が４９１万８,０００円でございます。こちらは新型コロナウイルス感染症対応分になります。

ページをおめくりいただきまして、２２９ページ、２３０ページをお願いいたします。

４款府支出金、２項府補助金、１目保険給付費等交付金、収入済額が４億８６１万２,０００円になります。

内訳といたしましては、１節普通交付金で３億７,８６１万９,０００円、２節特別交付金のほうで２,９９９万３,０００円でございます。

続きまして、６款繰入金、２項一般会計繰入金、１目保険基盤安定繰入金（保険税軽減分）、収入済額が２,３７２万２,８２０円でございます。

ページをおめくりいただきまして、２３１ページ、２３２ページをお願いいたします。

同款、同項、２目保険基盤安定繰入金（保険者支援分）としまして、収入済額が１,２２５万９,４０７円でございます。

続きまして、７款繰越金、１項繰越金、１目繰越金、収入済額が４,６２３万７,８２８円、前年度繰越金分になります。

ページをおめくりいただきまして、２３３ページ、２３４ページをお願いいたします。

歳入合計でございますが、収入済額が６億１,７６５万３,６２１円、不納欠損額が１３８万８,３７４円、収入済額が１,５２２万６,０６２円でございます。

続きまして、２３５ページ、２３６ページをお願いいたします。

歳出でございます。

こちらにつきましても、主なもののみということで、歳入と同様にご説明をさせて

いただきます。

２款保険給付費、１項療養諸費、ページをおめくりいただきまして、２３７ページ、２３８ページに続きます。１目一般被保険者療養給付費、支出済額３億３,５１５万１,７８５円。

同款、２項高額療養費、１目一般被保険者高額療養費、支出済額が３,７７３万２,７６７円となります。

ページをおめくりいただきまして、２４１ページ、２４２ページをお願いいたします。

３款国民健康保険事業費納付金、１項医療給付費分、１目一般被保険者医療給付費分、支出済額が１億１,５６５万７,７２７円となります。

ページをおめくりいただきまして、２４３ページ、２４４ページをお願いいたします。

６款保健事業費、１項保健事業費、１目疾病予防費、支出済額が５４５万２,８１４円となります。

主なものといたしましては、１２節委託料４８８万４,４４０円、主として、人間ドック検査委託料になります。

同款、２項特定健康診査等事業費、１目特定健康診査等事業費、支出済額が３８４万７,０４０円。

主なものといたしまして、１２節委託料３５０万８,４２８円、特定健康診査の委託料が主なものとなります。

続きまして、７款基金積立金、１項基金積立金、１目財政調整基金積立金としまして支出済額が２,０００万６９３円となります。

ページのほうが２４５ページ、２４６ページをお願いいたします。

歳出合計でございますが、支出済額が５億８,４６５万１８円、翌年度繰越額０円、不用額７４４万９,９８２円でございます。

ページをおめくりいただき、248ページをお願いいたします。

実質収支に関する調書でございます。

区分、金額の順に申し上げます。

1. 歳入総額 6 億 1,765 万 3,621 円

2. 歳出総額 5 億 8,465 万 18 円

3. 歳入歳出差引額 3,300 万 3,603 円

4. 翌年度へ繰り越すべき財源

(1) 継続費通次繰越額 0 円

(2) 繰越明許費繰越額 0 円

(3) 事故繰越し繰越額 0 円

計 0 円

5. 実質収支額 3,300 万 3,603 円

6. 実質収支額のうち地方自治法第233条の2の規定による基金繰入額、0 円でございます。

249ページ以降に財産に関する調をつけておりますので、後ほどお目通しのほうをよろしくをお願いいたします。

以上、令和2年度の国民健康保険特別会計（事業勘定）についてご説明をさせていただきました。

なお、直営診療施設勘定につきましては、診療所事務長と説明を交代させていただきます。

以上、よろしくお願いいたします。

○委員長（岡田 勇君）

国民健康保険診療所事務長。

○診療所事務長（細井隆則君）

続きまして、同じく、認定第3号 令和2年度和束町国民健康保険特別会計（直診

勘定) 歳入歳出決算につきまして、事項別明細書によりご説明申し上げます。

最初に、歳入でございますが、説明は、款、項、目、収入済額について、主なもののみとさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

1 款診療収入、2 項外来収入、1 目国民健康保険診療収入、9 9 8 万 3 , 8 3 2 円、現年度分でございます。

2 目社会保険診療収入 4 3 2 万 2 3 9 円、こちらにつきましても現年度分でございます。

4 目一部負担金収入、7 4 4 万 1 , 6 0 8 円、現年度分でございます。

同款、同項、7 目後期高齢者医療保険診療報酬収入、2 , 5 4 9 万 3 , 7 8 4 円、こちらにつきましても現年度分でございます。

めくっていただきまして、2 5 3 ページ、2 5 4 ページをお願いいたします。

6 款繰入金、1 項一般会計繰入金、1 目一般会計繰入金、3 , 5 5 0 万円、1 節一般会計繰入金でございます。

8 款諸収入、2 項受託収入、1 目検診等受託収入でございます。6 8 3 万 7 , 8 3 9 円でございます。検診等受託収入ということで、企業健診なり学校の検診に係ります収入でございます。

歳入合計でございます。予算現額 9 , 3 8 3 万円、収入済額 9 , 5 2 8 万 2 7 5 円、不納欠損・収入未済額は 0 円でございます。

めくっていただきまして、2 5 7 ページ、2 5 8 ページをお願いいたします。

続きまして、歳出でございます。

こちら、款、項、目、支出済額の順に申し上げます。また、主なもののみにさせていただきます。

1 款総務費、1 項施設管理費、1 目一般管理費、6 , 6 4 3 万 3 , 8 1 3 円。主なものといたしましては、職員人件費に係る分でございます。

2 枚ほどめくっていただきまして、2 6 1 ページ、2 6 2 ページをお願いいたしま

す。

２款医業費、１項医業費、３目医薬品衛生材料費、２，２１０万４，０３２円。需用費ということで同額支出しておりまして、医薬品等の医療材料費でございます。

めくっていただきまして、２６３ページ、２６４ページでございます。

歳出合計でございますが、予算現額９，３８３万円、支出済額９，１８４万９，６４９円、翌年度繰越額０円、不用額１９８万３５１円。

めくっていただきまして、２６６ページをお願いいたします。

実質収支に関する調書でございます。

区分、金額の順に申し上げます。

- １．歳入総額 ９，５２８万 ２７５円
- ２．歳出総額 ９，１８４万 ９，６４９円
- ３．歳入歳出差引額 ３４３万 ６２６円
- ４．翌年度へ繰り越すべき財源
- （１）継続費通次繰越額 ０円
- （２）繰越明許費繰越額 ０円
- （３）事故繰越し繰越額 ０円

計も０円でございます。

- ５．実質収支額 ３４３万 ６２６円

６．実質収支額のうち地方自治法第２３３条の２の規定による基金繰入額、０円でございます。

２６７ページ、２６８ページ以降につきましては、財産に関する調を載せておりますので、またお目通しいただきたいと思っております。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

○委員長（岡田 勇君）

会議の途中ですが、ただいまから午後２時４５分まで休憩します。

休憩（午後 2 時 3 2 分～午後 2 時 4 5 分）

○委員長（岡田 勇君）

休憩前に引き続き会議を開き、説明を続けます。

建設事業課長。

○建設事業課長（馬場正実君）

それでは、私のほうから、認定第 4 簡易水道事業、認定第 5 下水道事業についてご説明させていただきます。

事項別明細書 2 7 3 ページをお開きください。

最初に、令和 2 年度和束町簡易水道事業特別会計歳入歳出決算事項別明細書、歳入のほうでございます。

1 款使用料及び手数料、1 項使用料、1 目水道使用料でございます。1 節現年度分が 6, 3 9 3 万 1, 4 0 6 円、2 節過年度分が 9 7 万 2, 8 9 9 円となっております。

めくっていただきまして、3 款国庫支出金、1 項国庫補助金、1 目施設費国庫補助金、1 節施設補助金で生活基盤施設耐震化等交付金で 5, 6 6 1 万 7, 0 0 0 円でございます。

次に、6 款繰入金、1 項一般会計繰入金、1 目一般会計繰入金でございます。1 節一般会計繰入金として 6, 0 5 0 万 2, 0 0 0 円、一般会計繰入金（水道使用料軽減分）ということで 1, 6 6 9 万 3, 0 5 0 円でございます。

8 款諸収入、1 枚めくっていただきまして、2 項雑入、1 目雑入、1 節雑入でございます。水道施設損害保険金 5 3 1 万 8 0 0 円でございます。

9 款町債、1 項町債、1 目施設債、1 節施設債で、水道施設整備事業債が 1 億 6, 0 8 0 万円、資本費平準化債が 6 7 0 万円。

歳入の合資計でございますが、3 億 7, 8 0 5 万 5 9 2 円、不納欠損額 0 円、収入未済額が 1, 7 0 3 万 6, 9 4 9 円でございます

めくっていただきまして、歳出でございます。

1 款総務費、1 項総務管理費、1 目一般管理費でございます。主なものについては、1 0 節需用費 1, 8 4 7 万 7, 5 8 5 円、うち、光熱水費で 5 7 8 万 4, 3 3 2 円、修繕費で 5 3 4 万 7 5 1 円、中央浄水場落雷被害修繕費で 4 9 2 万 8, 0 0 0 円、おめくりいただきまして、医薬材料費で 1 7 7 万 9, 9 1 0 円。

同款、同項、同目、1 1 節役務費 3 8 3 万 7, 0 0 2 円。主なものとしましては、通信運搬費で 2 9 2 万 3 8 0 円です。

同款、同項、同目、1 2 節委託料でございます。2, 2 1 1 万 9 9 0 円。主なものとしましては、浄水場ろ過池砂入替業務委託で 1, 3 8 3 万 8, 0 0 0 円。

おめくりいただきまして、2 款施設費、1 項施設費、1 目施設費、主なものとしまして 1 2 節委託費、統合簡易水道整備工事設計委託料として 1, 0 7 6 万 7, 9 0 0 円。

同款、同項、同目の 1 4 節工事請負費で統合簡易水道整備工事で 2 億 4 8 7 万 5, 0 0 0 円。

3 款公債費、1 公債費、1 目元金でございます。2 2 節償還金利子及び割引料として 7, 3 2 0 万 2, 0 7 4 円。

2 目利子として、2 2 節償還金利子及び割引料で 1, 8 0 2 万 9, 2 2 3 円。

おめくりいただきまして、4 款基金積立金、1 項基金積立金、1 目基金積立金、2 4 節積立金で簡易水道事業減債基金積立金で 4 0 0 万 1 0 8 円。

歳出合計でございますが、3 億 7, 3 3 4 万 7 7 7 円、翌年度繰越額 0 円、不用額 7 5 2 万 2, 2 2 3 円でございます。

おめくりください。実質収支に関する調書でございます。

区分、金額で説明させていただきます。

1. 歳入総額 3 億 7, 8 0 5 万 5 9 2 円
2. 歳出総額 3 億 7, 3 3 4 万 7 7 7 円
3. 歳入歳出差引額 4 7 0 万 9, 8 1 5 円
4. 翌年度へ繰り越すべき財源

(1) 継続費通次繰越額	0 円
(2) 繰越明許費繰越額	0 円
(3) 事故繰越し繰越額	0 円
計	0 円

5. 実質収支額 4 7 0 万 9 , 8 1 5 円

6. 実質収支額のうち地方自治法第 2 3 3 条の 2 の規定による基金繰入額、0 円でございます。

財産に関する調につきましては、後ほどお目通しのほうをお願いいたします。

認定第 5 号の下水道事業特別会計でございます。

まず、歳入のほうから、こちら主なもののみの説明とさせていただきます。

2 款使用料及び手数料、1 項使用料、1 目下水道使用料、1 節下水道使用料、現年度分が 3 , 0 8 3 万 6 , 3 9 1 円、2 節下水道使用料過年度分につきましては 3 0 万 1 , 0 0 1 円。

おめくりください。

3 款国庫補助金、1 項国庫補助金、1 目下水道国庫補助金、1 節下水道事業費国庫補助金でございます。社会資本整備交付金ということで 5 6 0 万円。

5 款繰入金、1 項一般会計繰入金、1 目一般会計繰入金、1 節一般会計繰入金につきましては 1 億 6 , 6 3 2 万 5 , 0 0 0 円でございます。

おめくりいただきまして、8 款町債、1 項町債、1 目下水道事業債、1 節特定環境保全公共下水道事業債として 6 , 3 9 0 万円。内訳としまして、特定環境保全公共下水道事業債 1 , 8 4 0 万円、資本費平準化債 4 , 5 5 0 万円。

歳入合計でございますが、収入済額が 2 億 6 , 9 2 5 万 2 , 3 4 7 円、不納欠損額 0 円、収入未済額が 5 8 9 万 7 , 0 8 5 円です。

おめくりいただきまして、歳出でございます。

1 款総務費、1 項総務管理費、1 目一般管理費、主なものとして、1 2 節委託料 1 ,

136万5,000円。内訳としまして、下水道事業ストックマネジメント設計業務委託料が1,120万円でございます。

おめくりいただきまして、2款管理費、1項施設管理費、1目処理場管理費、10節需用費、支出済額958万4,440円。主なものとしまして、光熱水費が360万8,452円、修繕費で597万3,005円。

同目の12節委託料でございます。2,834万7,741円。主なものとしましては、処理場運転管理等委託料として2,167万円。

同目、14節工事請負費742万8,080円、工事請負費として742万8,080円。

2目管渠管理費、10節需用費として317万742円。主なものとしまして、光熱水費で228万8,953円。

おめくりいただきまして、4款公債費、1項公債費、1目元金、償還金1億4,486万2,175円、2目利子としまして、利子及び割引料2,672万5,148円。

歳出合計でございますが、2億5,616万9,928円、翌年度繰越額2,030万円、不用額168万72円でございます。

実質収支に関する調書でございます。

1. 歳入総額2億6,925万2,347円

2. 歳出総額2億5,616万9,928円

3. 歳入歳出差引額1,308万2,419円

4. 翌年度へ繰り越すべき財源

(1) 継続費通次繰越額 0円

(2) 繰越明許費繰越額 1,090万円

(3) 事故繰越し繰越額 0円

計 1,090万円

5. 実質収支額218万2,419円

6. 実質収支額のうち地方自治法第233条の2の規定による基金繰入額は0円でございます。

そのあと、財産に関する調をつけておりますので、お目通しのほうよろしく願いいたします。

以上、認定第4号、第5号の説明とさせていただきます。

○委員長（岡田 勇君）

福祉課長。

○福祉課長（北 広光君）

それでは、私から、認定第6号 和束町介護保険特別会計の説明を歳入歳出決算事項別明細書により説明させていただきます。

まず、保険事業勘定。

歳入からでございます。

主なもののみ説明させていただきます。

1 款保険料、1 項介護保険料、1 目第1号被保険者保険料、収入済額1億1,824万6,779円、1 節現年度分特別徴収保険料といたしまして1億1,194万3,032円徴収しております。

3 款国庫支出金、1 項国庫負担金、1 目介護給付費負担金、収入済額1億1,183万4,914円、1 節現年度分でございます。

同款、2 項国庫補助金、1 目調整交付金、収入済額4,281万9,000円。これにつきましても、1 節現年度分調整交付金でございます。

315ページ、316ページまでめくっていただきますようお願いいたします。

4 款支払基金交付金、1 項支払基金交付金、1 目介護給付費交付金、収入済額1億7,770万4,000円、1 節現年度分でございます。

5 款府支出金、1 項府負担金、1 目介護給付費負担金、収入済額9,996万2,000円、1 節現年度分全額でございます。

おめくりいただきまして、３１７ページ、３１８ページのほうをお願いいたします。

７款繰入金、１項一般会計繰入金、１目介護給付費繰入金、収入済額７，８１５万４，２３７円、１節介護給付費繰入金全額でございます。

おめくりいただきまして、３１９ページ、３２０ページをお願いいたします。

９款繰越金、１項繰越金、１目繰越金、収入済額１，３１８万７，４８２円。これにつきましても、１節前年度繰越金全額でございます。

収入合計、予算現額６億８，９００万円、収入済額６億８，９３２万４，１８５円、不納欠損額２６万３，０６０円、収入未済額３１９万８，９１０円。

おめくりいただきまして、歳出でございます。

１枚飛ばさせていただきまして、３２３ページ、３２４ページのほうをお願いいたします。

こちらにつきましても、主なもののみ説明させていただきます。

２款保険給付費、１項介護サービス等諸費、１目居宅介護サービス給付費、支出済額２億６８５万１，１０６円。主なものといたしまして、１８節負担金補助及び交付金で２億６８５万１，１０６円でございます。

おめくりいただきまして、同款、同項、５目施設介護サービス給付費、支出済額３億１，３１１万７，８９２円、１８節負担金補助及び交付金でございます。

同款、同項、９目居宅介護サービス計画給付費、支出済額２，３３３万３，７２４円。これにつきましても、１８節負担金補助及び交付金でございます。

同款、２項介護予防サービス等諸経費、１目介護予防サービス給付費、支出済額７３３万９，６７９円、１８節負担金補助及び交付金でございます。

おめくりいただきまして、３２７ページ、３２８ページをお願いいたします。

同款、４項高額介護サービス等費、３２９ページ、３３０ページをお願いいたします。１目高額介護サービス費、支出済額１，７７６万３１円、１８節負担金補助及び交付金でございます。

同款、５項特定入所者介護サービス等費、１目特定入所者介護サービス費、支出済額４,４０３万６,１９８円、１８節負担金補助及び交付金でございます。

おめくりいただきまして、３３１ページ、３３２ページをお願いいたします。

４款地域支援事業費、１項介護予防生活支援サービス事業費、１目介護予防生活支援サービス事業費、支出済額１,０６５万２３３円、１８節負担金補助及び交付金でございます。

おめくりいただきまして、３３３ページ、３３４ページをお願いいたします。

同款、３項包括支援事業任意事業費、２目総合相談事業費、支出済額６５０万１,３７５円、これにつきましては職員人件費となっております。

３３７ページ、３３８ページのほうによろしくをお願いいたします。

７款諸支出金、１項償還金及び還付加算金、３目償還金、支出済額８４７万２,８５１円、２２節償還金利子及び割引料といたしまして同額支出しております。主なものといたしまして、国・府の返還金で７９４万９,２１２円支出させていただいております。

おめくりいただきまして、３３９ページ、３４０ページをお願いいたします。

歳出合計、予算現額６億８,９００万円、支出済額６億７,０９８万４,０５６円、不用額１,８０１万５,９４４円。

おめくりいただきまして、３４２ページをお願いいたします。

実質収支に関する調書

区分、金額の順に説明させていただきます。

１．歳入総額６億８,９３２万４,１８５円

２．歳出総額６億７,０９８万４,０５６円

３．歳入歳出差引額１,８３４万１２９円

４．翌年度へ繰り越すべき財源

(１) 継続費逐次繰越額 ０円

(2) 繰越明許費繰越額 0 円
(3) 事故繰越し繰越額 0 円
計 0 円

5. 実質収支額 1,830 万 129 円

6. 実質収支額のうち地方自治法第 233 条の 2 の規定による基金繰入額 0 円

次ページに財産に関する調が載っておりますので、後ほどお目通しください。

続きまして、345 ページ、346 ページをお願いいたします。

介護保険特別会計（サービス事業勘定）でございます。

こちらにつきましても、主なもののみの説明とさせていただきます。

まず、歳入でございます。

1 款サービス収入、1 項予防給付費収入、1 目居宅支援サービス計画費収入、収入
済額 308 万 870 円、1 節居宅支援サービス計画費収入でございます。

2 款繰入金、1 項一般会計繰入金、1 目一般会計繰入金、収入済額 208 万 4,0
00 円、1 節一般会計からの繰入れでございます。

収入合計、予算現額 580 万円、収入済額 580 万 1,001 円。

おめくりいただきまして、歳出でございます。

1 款総務費、1 項総務管理費、1 目一般管理費、支出済額 441 万 2,229 円。
主なものといたしまして、職員人件費でございます。

2 款事業費、1 項居宅介護支援事業費、1 目居宅介護支援事業費、支出済額 117
万 9,063 円、12 節委託料といたしまして同額支出しております。これにつつま
しては、介護予防計画の委託料でございます。

おめくりいただきまして、349 ページ、350 ページをお願いいたします。

歳出合計、予算現額 580 万円、支出済額 559 万 1,292 円、翌年度繰越額 0
円、不用額 20 万 8,708 円。

続きまして、352 ページをお願いいたします。

実質収支に関する調書

区分、金額の順に説明させていただきます。

1. 歳入総額 5 8 0 万 1 , 0 0 1 円

2. 歳出総額 5 5 9 万 1 , 2 9 2 円

3. 歳入歳出差引額 2 0 万 9 , 7 0 9 円

4. 翌年度へ繰り越すべき財源

(1) 継続費通次繰越額 0 円

(2) 繰越明許費繰越額 0 円

(3) 事故繰越し繰越額 0 円

計 0 円

5. 実質収支額 2 0 万 9 , 7 0 9 円

6. 実質収支額のうち地方自治法第 2 3 3 条の 2 の規定による基金繰入額 0 円

以上でございます。よろしくお願いいたします。

○委員長（岡田 勇君）

税住民課長。

○税住民課長（吉田敏江君）

続きまして、令和 2 年度和束町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算につきまして、事項別明細によりご説明させていただきます。

3 5 3 ページ、3 5 4 ページをお願いいたします。

まず、歳入からでございます。

説明のほうは、款、項、目及び支出済額について、主なもののみとさせていただきます。

1 款保険料、1 項後期高齢者医療保険料、1 目特別徴収保険料、収入済額が 2 , 8 3 5 万 2 , 1 9 9 円、現年度分といたしまして同額になります。

同款、同項、2 目普通徴収保険料、収入済額が 1 , 8 1 3 万 6 , 8 8 2 円、1 節現年

度分といたしましては1,768万5,548円、2節滞納繰越分といたしましては45万1,334円でございます。

続きまして、3款繰入金、1項一般会計繰入金、1目一般会計繰入金、収入済額が2,603万3,321円。内訳といたしまして、1節事務費繰入金505万4,000円と2節保険基盤安定繰入金2,097万9,321円でございます。

ページをおめくりいただきまして、355ページ、356ページになります。

歳入合計といたしまして、予算現額7,555万円、収入済額7,565万8,169円、不納欠損額0円、収入未済額237万7,069円でございます。

続きまして、ページをおめくりいただき、357ページ、358ページをお願いいたします。

歳出でございます。

2款後期高齢者医療広域連合納付金、1項後期高齢者医療広域連合納付金、1目後期高齢者医療広域連合納付金、支出済額が6,990万9,873円。

3款保健事業費、1項健康保持増進事業費、1目健康診査費、支出済額が461万6,857円でございます。主なものといたしまして、12節委託料434万9,884円、健康診査委託料になります。

ページをおめくりいただきまして、359ページ、360ページになります。

歳出合計でございます。

予算現額が7,555万円、支出済額が7,531万7,548円、翌年度繰越額0円、不用額23万2,452円となります。

ページをおめくりいただきまして、362ページをお願いいたします。

実質収支に関する調書でございます。

区分、金額の順に申し上げます。

1. 歳入総額7,565万8,169円

2. 歳出総額7,531万7,548円

３．歳入歳出差引額 ３４万６２１円

４．翌年度へ繰り越すべき財源

（１）継続費通次繰越額 ０円

（２）繰越明許費繰越額 ０円

（３）事故繰越し繰越額 ０円

計 ０円

５．実質収支額 ３４万６２１円

６．実質収支額のうち地方自治法第２３３条の２の規定による基金繰入額 ０円

以上、令和２年度後期高齢者医療特別会計決算の説明とさせていただきます。

よろしく願いいたします。

○委員長（岡田 勇君）

以上で令和２年度決算についての説明が終わりました。

これから質疑を行います、委員の皆様をお願いします。

本委員会は、令和２年度の決算特別委員会です。令和２年度事業の審査に関する質疑をお願いいたします。

また、最初に何ページのどの項目かを明確にして質問してください。

なお、１人７問としておりますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

それでは、質疑を行います。

２番、高山委員。

○２番（高山豊彦君）

それでは、私のほうから、決算審査の意見書を元に少し確認をさせていただきたいというふうに考えております。

この意見書の１１ページ、簡易水道事業特別会計に関して少しお尋ねをしたいんですが、この決算の状況を見ますと、歳入総額が３億７，８０５万１，０００円、歳出総額が３億７，３３４万１，０００円ということで、差引きが４７１万円黒字になってい

るということでございます。

先日の一般質問等でもございましたが、今回、水道料金の見直しというようなことでいろいろ質問もございました。こういう黒字の状態でなぜそういった料金の見直しが必要なのかということ、それと、一般質問の中でも値上げをする原因については給水人口の減少であるとか、元利償還金の増加とかですね、そういったこともこの決算の意見書の中でも書かれておりますけれども、元利償還金が今後も大幅に増加していくということで、中長期的な財政収支の見直しを踏まえた適正な料金見直しをということで指摘があるわけですが、このあたりについてもう少し詳しく説明をいただけたらというふうに思っています。

先日の一般質問の中でも改定率が倍になるというようなお話もございました。そういったことも含めて、もう少し詳しくご説明をいただきたいと思います。

○委員長（岡田 勇君）

建設事業課長。

○建設事業課長（馬場正実君）

高山議員のご質問にお答えさせていただきます。

すみません、事項別明細書のほうの２８６ページ、高山議員のご質問の中で歳入総額が３億７，８００万円、歳出総額が３億７，３００万円ということで４００万円ぐらゐの黒字になっているんじゃないかというご質問でございますが、これにつきましては、起債の借入れをもってプラスマイナスを合わせておりますので、こちらのほうに４７０万円ほど黒の数字が記載されるということになります。

ただ、２８６ページの４款基金積立金のところの簡易水道減債基金ということで、毎年、過年度から若干のお金を起債の償還のためにここへ積んできております。今回もその４００万円を積ませていただいたということで、この４００万円の隙間につきましては、去年発注しました工事等の入札残とかの額で浮いてきたお金をここに積ませていただいたということになるんですけども、あと、消費税の還付とかもございま

すので、そういうお金を積んで減債基金に充てているということでございます。

ただ、令和３年度以降の償還額が大きく膨れ上がることから、３，０００万円ほどあがるということになるんですけども、その分で今後の収入見込みが薄くなってきますので、その収入見込みの分を今回の料金改定で改定させていただきたいということで、要因の一つとしては、事業の整備ということで使わせていただいたお金の返済を今回、水道料金のほうで幾ばくかお願いしたいということで考えております。

○委員長（岡田 勇君）

２番、高山委員。

○２番（高山豊彦君）

先日の一般質問の中でも再三質問がございました。その中で給水人口の減少というのがございました。要するに、使用料の収入が落ちていっていると。収入が十分得られてないというようなことですね。ただ、給水量の減少については、人口の減少以外に何か原因があるのかな。

これは何かと言いますと、先日、ある地域へ行きましたら、その地域でのほとんどの世帯で山の水道を使っておられるというようなお話も聞かせていただいたんです。そういったことが給水量の減少につながっているのではないかなというふうに私は思ったんですね。その分が簡易水道を使用していただくことによって給水量がもっと上がるんじゃないかなというふうに考えているんですが、そういったところの把握と言いますか、そういったところは町のほうでされておりますか。

○委員長（岡田 勇君）

建設事業課長。

○建設事業課長（馬場正実君）

お答えさせていただきます。

簡易水道事業につきましては、今、３億７，０００万円ほどの事業を行っております。この事業につきましては、過去は７水源に分かれておりました。その７水源の前

は各自治体関係で簡易水道事業等をやられていたという時代があります。それが早い時期に行われた地域なのか、遅い時期に行われた地域なのかによって自己水源というのがかなり大きく差が出ます。

特に、簡易水道事業の一番最後に行いました、今回、西部水源等については遅い部分に入ります。また、それから東平田水源の拡張ということで行われた東部水源、こういった地域については時期が遅く行われていますので、それまでの間、山の水道水を浄化して水源として使われていた時期がございます。この辺の分については昭和50年の後半までこういう時代がございますので、その部分については水道料金の跳ね返りになってないという部分は多々あります。

有収水量が人口の減少に併せて10万立米近く、ここ10年で落ちてます。これが大きな要因の一つにはなろうかと思えますけども、それで今回決算のほうでも出てますように、収入が6,000万円台に落ち込んでいるというのが現状でございます。

○委員長（岡田 勇君）

2番、高山委員。

○2番（高山豊彦君）

それでですね、簡易水道事業を健全に行っていくためには、世帯でいくと人数が変わりますので、1人当たり、月、何立米ぐらい使用すれば健全な経営が成り立つんでしょうか。

○委員長（岡田 勇君）

建設事業課長。

○建設事業課長（馬場正実君）

はい、お答えさせていただきます。

大体、1日当たり300リットルぐらいの水と言われておりますので、大体1月で10立方メートルぐらいの水を1人が使われる。ですので、1人世帯であれば10立米前後であるということですね。4人家族ぐらいになると大体35から40立

米ぐらいになります。そのぐらいの水量を使っておられて大体標準です。

私も、町内、それから相楽地域内の何軒かの家庭の水道料金を友人を介して出してもらったりしたんですけども、大体、夫婦と年寄りもしくは子供というところで見ますと40立米ぐらいになってます。

○委員長（岡田 勇君）

2番、高山委員。

○2番（高山豊彦君）

1人当たり大体10立米使用していただくと何とか経営として成り立っていくのではないかとのございました。これまで給水量を上げるために住民の方をお願いであるとか、そういった広報的なことはされてきたのか、また今後どのようにそのあたりは考えておられるのかお聞きします。

○委員長（岡田 勇君）

建設事業課長。

○建設事業課長（馬場正実君）

はい、お答えさせていただきます。

豊富・低廉な水を自己水源として持たれてる地域の方が多いというのが現実でございます。こういう方々に対して、できる限り水道を使ってくださいと、豊富・低廉な水を使わないでくださいという話をするというのはなかなか難しい部分がございます、そういう広報はしておりません。

ただ、町としましては、れんけいとかにも書いてますように、クロスコネクションと言うんですけども、水道水と山水を同じところで接続しないでほしいと。これは水道法違反になりますので、そういう指導はしてまいりました。それによって野菜を畑から持って帰って洗う水、洗濯する水、それから庭に散水する水とかに山の水を使っていて、炊事場とか、それからお風呂とかについては、基本、水道水を使っほしいという具合には啓発をしておりますが、なかなかそれが現実味を帯びていない

というのが町のほうで計算し出した水道水の水量の使用の分布になります。

○委員長（岡田 勇君）

2 番、高山委員。

○2 番（高山豊彦君）

これからやはり安定した水道料金で今後もこういった事業を続けていくためには、やっぱり一定のところで住民の方への協力もお願いしなければならないところも出てくる。料金の値上げだけではなくて、使用料についてもやはり協力いただけるようお願いしていただく必要があるのかなというふうに思いますので、それについては今後また努力をお願いしたいというふうに思ってます。

次に、決算審査意見書の5 ページなんですが、町税の関係です。

ここで見ますと、町民税、法人のほうなんですが、現年分の徴収については100%となっています。滞納繰越分の収入が昨年と比べると非常に低い率になっている。今年度は6万5,000円、昨年度が102万1,000円という収入済額ということになっています。この滞納の繰越分の徴収が落ちた原因というのは何か分かりますか。ご説明お願いできますか。

○委員長（岡田 勇君）

税住民課長。

○税住民課長（吉田敏江君）

高山委員のご質問にお答えいたします。

今ご質問のありました法人の町民税の滞納繰越分につきましては、昨年度の徴収の主なものといたしましては、差押えによる滞納処分が主なものでありました令和2年度につきましては、コロナ禍におけます緊急事態宣言を考慮しまして、自粛ということで、ほぼ約半年余り京都地方税機構の滞納処分のほうがされてない状態でございました。そのことが原因になりまして、滞納繰越分全体の収納額が顕著に減少しているという事象が起きております。

法人につきましても、主なものが差押えであったがために、今回令和２年度の収納額は大きく減少したものであります。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

○委員長（岡田 勇君）

２番、高山委員。

○２番（高山豊彦君）

コロナの感染拡大の影響で徴収作業を自粛されたということが主な原因だということでございます。これにつきましては、今後も徴収のほうに努力いただけるように調整をお願いしたいというふうに思いますので、よろしくお願いいたします。

次に、決算審査意見書で８ページなんですが、この中で湯船財産区の特別会計のことが指摘がございました。この中で財政調整基金からの繰入金以外の収入がほぼなかったということです。基金の枯渇が迫っているということで、今後、財政運営が困難となることが見込まれるという指摘がございました。運営方法の抜本的見直しが必要とあるんですが、事項別明細書の２２４ページに基金の残額、決算年度末現在高というのが６５２万６，７７１円ということになってます。昨年と同じように、この基金からの３００万円を運営していくために繰越しをしていくとすれば２年で枯渇してしまう状況になるんですが、その対策とか、そういったことの考え方はどのようにお考えなのか、ご説明いただけたらと思います。

○委員長（岡田 勇君）

町長。

○町長（堀 忠雄君）

財産区の関係でございますが、財産区の設立は財産区協議に基づいております。財産から生じる金は地域住民の福祉増進に充てる、これが基本であります。だから、ほかの会計に充てられない。だから、生じてこなければ、その運営は非常に難しくなります。だから、当然、当面は収入に応じた運営をしていかなきゃならないと思います。

枯渇すれば非常に大変だと、そういうように思っております。これはほかから持っていくというわけにいきませんので、そういう意味におきましては、財産区協議に基づいて粛々とやらなきゃならん。また、その辺は地元とも十分話し合いはしていかなきゃならんと、そういう時期に来ていると、こういうようにご理解いただきたい。

○委員長（岡田 勇君）

2番、高山委員。

○2番（高山豊彦君）

分かりました。

これについては、そういったことにならないように地元のほうと協議いただけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

次にですね、国民健康保険の特別会計の関係で意見書の11ページなんですが、直営診療施設勘定について、一般会計繰入金が年々増加している状況にあるということでございます。地域医療の確保に努め、繰入金に頼らない健全な財政運営を進める必要があるということなんですが、今後いろいろ総合保健福祉施設であるとかですね、そういった事業も今後検討もされているわけですが、そういったことも含めて、やはりそういった健全な財政運営というのは今後求められるわけですが、これについてその対策というのはどのように考えておられるのか説明をお願いしたいんですが。

○委員長（岡田 勇君）

国民健康保険診療所事務長。

○診療所事務長（細井隆則君）

はい、お答えいたします。

その前段として、診療収入が減少しているというのがございます。前年度比減額の848万5,000円ということで、これはコロナによる受診控えというのが半分あると思います。あと半分は、人口減少なり診療所の患者さん、診療収入の内訳を見てもらったら分かると思うんですけども、後期高齢の診療収入が半分ぐらい占めてお

りまして、その後期高齢の方の死亡なり転出なりが大きいのかなというふうに思います。

これからも人口減少が続いていくと思われますので、その傾向はなかなか止められないかなというふうに思っておりますが、令和2年度から午前の診療しかしておらない。コロナの感染拡大への配慮も含めまして、そういったことで午前の診療しかしておらないんですけれども、来年度以降、その辺はまた所長との相談ということにもなるかなとは思いますが、夜間診療、あるいは夜間をしなくても午後の診療等、今、言わば、休止している部分の再開というものからまず手をつけていかないといけないかなというふうには考えております。

○委員長（岡田 勇君）

7番、岡本委員。

○7番（岡本正意君）

それでは、よろしくお願いいたします。

私のほうからは、まず、130ページの民生費の中の委託料の最後にありますが、施設整備基本計画策定業務委託料550万円に関連してお聞きしたいと思います。

これは総合保健福祉施設の整備の基本計画を令和2年度に策定をされました。私は前から言っておりますように、この施設の整備そのものは大変大事だと思っておりますし、ぜひ、今後の住民の命と健康をしっかりサポートしていく拠点として、いいものを整備していただきたいというふうに思っております。ただ、それだけにですね、今、令和3年度から新しい担当課もつくられて、実際に建設をされようという動きになっております。それだけに、そういう大事な施設を造るわけですから、その経過について不透明な部分や、また説明のつかない部分というものがあってはならないというふうに思っております。

というのは、今後造っていくとなればそれなりの経費もかかるわけですから、その判断が誤れば、やはり払わなくてもいいような経費まで、今後、住民が負担しなく

ちやいけないということにもなりますので、その辺も含めて、今回、決算ということですので、もう一度確認をしていきたいと思います。

令和２年度の６月にいわゆる検討委員会が最終の８回目の委員会を開いておられます。これは最終のほうなんですけども、それを受けまして、６月３０日付で谷口委員長の名前で、和束町総合保健福祉施設整備基本計画に関する提言書というのが出されました。その中で、その一つとして、こう書いてあります。

「本計画においては、施設を整備する場所としてグリーンティ和束の隣接地と町役場の隣接地の２か所を優先的な候補地として定めた。どちらの場所に決定するかは、まちづくりの中長期的な展望を踏まえ、さらなる住民の意見や事業スケジュール等を勘案した上で、町が判断するものとする。」ということになっております。

そこで、担当課長にお聞きしますけども、この６月３０日の提言書を出された時点では、これをそのまま読めばそう思いますけども、整備する場所としては、優先的な候補地は定められておりますけれども、決定はされてないということによろしいですね。

○委員長（岡田 勇君）

福祉課長。

○福祉課長（北 広光君）

はい、お答えいたします。

今おっしゃられるとおり、提言書にあるとおりでございまして、その時点でどちらの場所というのは町のほうに委ねられたということで、決定しているものではございません。

○委員長（岡田 勇君）

７番、岡本委員。

○７番（岡本正意君）

それで、それを受けまして、その後９月に議会のほうに検討委員会がつくられた基

本計画案と提言書について説明をいただきました。それはそれで結構ですけども、その後、年を明けまして、今年の２月１５日に再び議会の全員協議会が開かれまして、そこで最終的な町の判断をされた基本計画案が説明いただきました。そこで、いわゆる町としては役場の隣接地に整備をしたいという方向性が示されました。

そこで、もう一度確認したいんですけども、その中では、若干の基本計画の中の検討委員会の案に対して変更がされておりました。それは、いわゆるグリーンティ和東隣接地と役場隣接地のそれぞれについての災害安全性の問題についての評価を変更するということが行われました。

そこで当時の担当でありました福祉課長にお聞きしますけども、その決定された内容というのは、９月の私たちへの説明以降いつ決定されましたか。それと、どういうメンバーで協議され、どういう場で決定されましたか。

そしてもう一つ、今回の先ほど言いました変更点というのは、いわゆる町長がよく言われる利便性がいいとか、またなじみがあるとか、連携が取れるとか、そういうことでなくて、土砂災害や水害といった、大変、今、激甚化している、そういう災害との関係での安全性というものについての評価に対する変更だったんですね。ということは、やはり変更するのであれば、そこには一定専門的な知見であるとか、また検証、そういうものを踏まえたものの中で変更というのが行われるのが当たり前だと思います。町長や福祉課長が幾ら知恵を絞ってもそんな専門的な評価はできません。そういう点でいえば、そういう専門的な助言であるとか、また調査であるとか、検証は当然行われたものと私は思っておりますけども、その辺はどのように行われたのか。先ほど言いましたように、いつ決めたのか、どういうメンバーでどういう場で決めたのか、専門的な知見はどう反映されたのか答弁いただけますか。

○委員長（岡田 勇君）

福祉課長。

○福祉課長（北 広光君）

はい、お答えいたします。

いつ決めたかという明確な日付は、今、手元のほうに書類を持ってきておりませんので、申し上げられませんが、これにつきましては、当然、今、岡本委員からもありましたように、計画をつくるに当たってベースとなるものをつくっていただきましたコンサルタント会社、そちらの専門の方、また、ここの委員長にもそうですし、また古くから和東町にずっとお住みになられてる方の経験則等を聞かせていただいた中で、町長等々相談させていただいた中で、最終、今回のような形になったということで記憶しているところでございます。

○委員長（岡田 勇君）

町長。

○町長（堀 忠雄君）

今、課長のほうから答弁させていただいたとおりであります。その中にも最終、町長という話がありますので、私から補足して答弁をさせていただきたいと思います。

今も岡本委員が言われますように、最初的时候は町に委ねられました。そして、町でいろいろと検討する中では、疑問が出てきた内容もあります。いわゆる安全というところで本当に安全なのかという1点の場合を考えたときには、やっぱり低水護岸で結局浸かるというところが、結局、ハザードには入ってこない。

ハザードというのは、人が住んでいる家が建っているところを非常に意識して、事前からそのことを考えてしてますので、建ってないところについてはそういうことはありませんので、今、言われましたように、二つのことをコンサルタントにお聞かせ願いました。それはそのとおりです。そうなれば、ここは危険地域なのだと、これが1点。

それと、もう一つは、委員会でお世話になったときにですね、これは住民の皆さんからも議会からも出ていただいたと思いますが、いろんな立場の方から出ていただきました。そういった声が住民の皆さんも全て、私にすれば8割から9割までのほとん

どの委員さんが利便性の話をされました。そのときに、これは大事ですかとコンサルに聞きましたら、ハザードでは今まで100年単位ですが、私は1000年単位で起こることだという印象が残りました。1000年単位で起こるものを100年までのところにする、その利便性とはということで、もう一度コンサルにお聞かせ願ったことがあります。そういったことを含めて、コンサルのほうで再検討して、委員長等とか、その再検討をされたと思いますが、その結果を見て判断したと、こういうことであります。

今、岡本委員が言われるように、こちらでやれるものではありません。こちらは疑問に思ったことを出させていただいた。そして、その結果、コンサルのほうで「そうです」という話をされました。その辺が私ももう少し資料をきちっと持ってやっていかなきゃなんということを、住民の意思を十分尊重してお願いしますという意見は付け加えましたけども、そういうことであったというふうに理解いたしておりますので、報告をさせていただきます。

○委員長（岡田 勇君）

7番、岡本委員。

○7番（岡本正意君）

今、いわゆる専門的な知見というのはコンサルだという話をされましたけれども、これまでもずっとコンサルというのはおられたわけですね。でも、今までそんなこと一言も言ってこられなかったし、今になって「コンサルが」「コンサルが」と言われますけども、今まで何度もこの話をしてきましたけど、全くそういう話をされてませんよね。ですから、大変都合のいいお話だなというふうに思っていたんですけども、それはそれでいいでしょう。

ただ、それでも安全性を覆すような評価にはなっていないわけですから、大変疑問が残るわけなんですね。実際、コンサルがどう判断したかという資料も頂いてませんからね。sonだけ専門的な知見をお持ちのコンサルだったら、どういうことでこう

なんですというようなことがちゃんと資料について当たり前だと思うんですよね。そういうことさえされずに、単に口頭で言われてきたという意味でも、大変当てにならない話だと思うんですよ。

そこで、町長にお聞きしておきたいんですけども、いずれにしても、町長は以前から、役場の隣接地で整備したいという方向を言っておられましたよね。実際、先ほど言われたように、委員さんからも多くの方が、どの程度か知りませんが、役場のほうがいいという声が多かったと。実際、書面審査の中にもそういうことが確かに書いてあります。そうだったら、そういった声があると、実際に委員会でもそういったものの声も大きかったわけだから、利便性のこともあるし、町長が言われるようなろんななじみもあるわけだから、そういうことで役場に決めましたということでも、いいか悪いかは別にしても、それでもよかったんではないかと思うんですけどね、ただ、あえて評価を変えられましたよね。

要は、先ほど変更点で町が出した文書ですよ。いわゆるグリーンティ和東のほうの水害との関係でいったら、当地の評価というのは○だったんですね。それを△にした。役場の隣接地の土砂災害については、×だったものを△にした。水害についても×だったものを△にした。こういう変更をわざわざ加えたわけですよ。

コンサルって言われるけども、どこまでそういう専門的なものがあるのか知りませんが、あえてここで×だったものを△にするって大きい変更ですよ。そういったものを何の説明もなく変えておいてやったというのは、町長、このまま役場にしてみたら、要は、土砂災害でも水害でも評価は×だと、こういう状況では幾ら何でもそれはまずいんじゃないかと。だから、何とかつじつまを合わせるために恣意的に変えてしまおうということで、今回こういう評価を変えられたんじゃないですか。どうですか。

○委員長（岡田 勇君）

町長。

○町長（堀 忠雄君）

はい、お答えいたします。

事前に町長は役場の横だという話をされています。公式に対外的にもこの話はしません。内部での協議はいろいろと意見は述べますが、外へ自分の意見というのはあまり出しておりませんので、この辺のそこははっきり申し上げておきたいと思います。

それから、先ほど岡本委員が申しておられる、町に委ねられたときの資料で内部で協議させていただいた。先ほど課長も言われましたように、いろんな方の声も聞きました。そして決めていただいたと。

いわゆる一つは、本当にあそこが○なのかと。ここは資料をつけていきますと、やはり低水護岸で、あちらに集まる形となっています。それとトンネルを掘りますと、今、河川をやり変える工事を今やってませんが、そういう計画すらも非常に大変なところだと。それだったら完璧に○じゃないね。△じゃなかろうかなというように思ったんです。これは私の解釈で、そういう意見を持ってどうですかというように聞きます。そのときにはその場所についての判断が加えられた。それまではハザードだけでやっていたと思いますね。

その次にもう１点大きく変わってきたのが、１００年単位で考える水害・雨量の災害が１０００年単位に変わってきている、この辺のところを大きく考えていかなきゃならない。こうなってきますと非常に変換のときですので、やっぱりこれから住民の皆さんのまちづくりの拠点になる、みんなが誇れるまちづくりをするんだと。１点でも疑問が残るところは、はっきり出させていただいて、そして、その疑問にきちっと対応できるもの、その結果○であればいい。その結果×であればそれでいいんですけども、そういうことをもう一回、先ほど言いましたように、コンサルに委ねてご検討をお願いしました。そういう経過が残っておりますので、その経緯を見ていただいたら分かりますように、そういう中で判断してきたということでご理解のほうをよろしくお願いいたします。

○委員長（岡田 勇君）

7 番、岡本委員。

○7 番（岡本正意君）

先ほど町長は、いわゆる自分は公の場で、役場のほうがいいということは言ったことがないと言われましたよね。そんなことないですよ。私が一般質問をしたときにそう言われてましたよ。

それと、1000年に一度だからいいということですか。今、この夏の水害とかをどう見られてるんですか。

先ほど来、激甚化しているとかってよく言われてましたが、今、気候変動も激しく起こっていると。100年だろうが、500年だろうが、1000年だろうが、先だと思っていた災害が明日来るかもしれないみたいなときに、コンサルに1000年に1回とかって言われたから、それでいいだろうというような大変のんきな判断をされただなというふうに思いますし、先ほどいろいろ言われましたけど、こう書いてあるんですよ。「大勘定川のデータはないが、一定の浸水が想定される」、データもないのに何で想定できるんですか。こういうところが何の知見もないというんですよ。データもなしに想定されるってね、そんなむちゃくちゃな話はどこにあります。今、町長が言われていることはそういうことだと思うんですよ。

もう一度聞きますけどね、福祉課長にお聞きしますけども、今、コンサルに委ねて、そういう評価を変えていただいたと言われましたよね。2月15日の全員協議会のために当初の確定として出された案ですね、これは一つだけ言っておきましょう。

役場の隣接の関係で土砂災害ですね、「イエローゾーンに指定されているが、建物が崩壊することはない」って書いてあるんです。ないんです。100%ないということになっているんですね。そのコンサルの専門的知見で、「ない」というふうに判断されたんですか。その根拠って一体何なんですか。コンサルが「ない」と言ったからないんですか。その根拠というのはちゃんと示していただきましたか。

そこを説明いただきたいのと、もっと問題なのは、これをそのとき私、言いましたよね。何でないと言えるのか。そんな言い切ったようなことをなぜ言えるのかって言いましたよね。その後、課長は、変えましたよね、最後。「危険が少しある」ってなりましたよね。「ない」って言ったのが「ある」になったんですよ。その短い期間の中でどういう検証がされて「ない」ってというような表現になったんですか。それもコンサルですか。そんなん言い切ったら困るから、「ちょっとある」にしときましょうというぐらいの、そういうことですか。そんなこと言ったら失礼ですよ。ちゃんと科学的知見に基づいた検証があった上で「ない」と言っていたものが「ちょっとはある」になったということですか。

さっき言った「ない」というふうに判断した根拠と、私がちょっと言ったからといってね、短い期間に「ある」というふうに判断してひっくり返した、その経過というかね、どういう経過があってそう判断になったんですか。ちゃんと説明いただけますか。

○委員長（岡田 勇君）

福祉課長。

○福祉課長（北 広光君）

はい、お答えいたします。

2月15日のときにもご説明はさせていただいたと思うんですけども、確かに、岡本委員、100%という強い言い方で、私、ご指摘いただきました。その後、戻ってコンサルタント会社等々相談していく中で、今の世の中で100%と言い切れるものはないと言われれば確かにないというところから、100%みたいな表現の仕方はやはりどうかというようなことで100%ではなくなったというような表現の変更をさせていただきました。

そのときの説明の中で、私個人が特に100%という形を取らせてもらったわけではないんですけども、やはり表現の仕方はまずかったというようなお話をさせていた

だいたと思うんですが、これにつきましては、やはりあのときにご指摘の中で、この世の中で100%みたいなことを言われまして、実際に帰っていったときにコンサルタント会社との相談の中では、やはり100%安全ということも、100%危険ということも、やはり100という完璧な数字というのは表現的にはきつ過ぎるんじゃないかということで、表現の仕方を変えさせていただいたということでございます。

○委員長（岡田 勇君）

7番、岡本委員。

○7番（岡本正意君）

大変な答弁をされてますよ、町長。あなたたちが書いたんですよ、ここに。「指定されているが、建物が崩壊することはない」、ないんですよ。ない言うたら100%しかないでしょう。99%ですか。95%ですか。それはあるっていうことじゃないですか。天気予報でもそうでしょう。100%晴れますというのか、降水確率50%、降らないかもしれないけども降るかもしれない、どっちの可能性もあるっていうことでしょう。この場合、「ない」で言われたんだから100%じゃないですか。言い方も何も、そんな表現の仕方ということは、都合のいいように書き換えたということですよ。

私は表現の問題を言っているんじゃないんですよ。文学者じゃないんだからね。科学に基づいて仕事をされてますよね、町長。自分たちの言い回しとか、そのときの感情とか、そんなことでこういう大事なことを決めてませんよね。

コンサルに聞いたら、その言い方はまずいと。だから変えときましょうかで、ないもんがあるになったと。それが現実でしょう、町長。そんなことでこんなことを認めるんですか。認められるんですか。そのコンサルって一体何なんですか。どこかの出版社ですか。ちょっとこの表現はまずいね。もうちょっとこう書いといたらいいんじゃないかというね、そういうコンサルですか。そんなはずないでしょう。ちゃんと科学に基づいて、こうだからやっぱりあるよね。だから、そういうふうに変えましょ

うというのが本来あることでしょう。それだったら単なる書き換えじゃないです。ただの改ざんじゃないですか。そんなことで、これから住民が長く使うね、そして幾らかかると思っているんですか。役場隣接でかさ上げとかした場合に10億円ですよ。

11億円ですよ。これはあなたたちが試算したやつですよ。一番安くても8.8億円ですよ。そんなお金かかる。これは誰のお金ですか。回り回って税金でしょう。そういうことにそんないい加減な表現回しというか、言い方を変えるだけで場所を決められるんですか、町長。ちゃんとした根拠になる資料を出してください。それでちゃんと答弁してください。

どうですか。

○委員長（岡田 勇君）

町長。

○町長（堀 忠雄君）

はい、お答えいたします。

先ほどの中でコンサルとの関係で、私は、いいものをするときに役場の職員みんなで議論し、協議し、そして足りない、専門性があるときにはコンサルに委託し知恵を借りる。そして、いいものをつくっていく。コンサルが言ったからといって必ずそれが100じゃなしに、それは協議として最上のものを造り上げていくと、こういうことであると思います。

そして、先ほど言いましたように、疑問があればどんなことであっても、これはどうですか、これはどうなんですかと聞くのが当たり前。そして、今、言われたように、どこでも危険性がありますから、そういうことを加味して設計に生かしていくという部分があるわけですから、技術はこれから設計業者が競っていく内容だと思います。そのために実態がどうなのかということをきちっとつかまえていく必要がある。

その答弁どおりやっていくとなったらコンサルの知恵も何もないです。次の設計業者、これは実態としてこういうことがありますよ。その上に立ってどうしますか。そ

のときに浸水区域はあるとしたら、浸かるんだったら垂直も考えなきゃならん。土、置くほうが安いのか、しかし1階については水が流れるような形を取るのか、それは資料を出された計画に基づいて設計業者が知恵を出すところだと。その知恵がいいところを採用していく。そのためにも、こういったところを決定するにおいてもですね、私はやっぱり専門の方が大事だということで、決定にも専門の方を選出して今やっているところであります。

だから、そういう意味においては、あくまでもそれは決めた資料であり、こういうところでありますから、こういうことを加味してやってくださいということを言いたいわけですから、そのとおりやっていくか、基盤に9億円かけなきゃならん、10億円かけなきゃならん、そういう単純なものではないんですね。そこはお互いそういう状況のところをいかに経済効果を出しながら、そして次につながる、そういういいものを議論していく、これが大事だと思っておりますので、まだ、これは議論が続いている。まだ、これからも場所、そして設計の在り方、設計業者の在り方、こういった皆さんの声を十分聞きながら進めてまいりたいと、そのように思っております。だから特に時間もかかっております。そういう意味でご理解をよろしくお願いいたします。

○委員長（岡田 勇君）

7番、岡本委員。

○7番（岡本正意君）

いろいろ言われましたけど、一つも答えておられません。答えられないんだったら、言い訳ばかりせずに、答えられませんかて言ったらいいんじゃないですか。

役場の隣接で造られるんだったら造ったらいいですよ。どうぞ造ってください。別に役場があかんとかって言ってるん違うんですよ。どこだっていろいろありますよ。分かってますけどね、ちゃんとした根拠を持って提案してくださいって言ってるだけなんですよ。

住民の税金も使うわけだし、命や健康を守る施設を造るわけだし、そこをちゃんと

納得いくような根拠を出してやってくださいって言ってるだけの話であって、そういうことをちゃんと答えられないんだったら、勝手に決めないでくださいと思います。それで、この問題の最後、そういうことですわ。令和２年度に５５０万円かけて検討してきた基本計画ね、科学に基づかない文学作品のようなね、ちょっと書き換えておこうかと。それはまずいよね。１００％なんてあり得ないよね。あり得ないんだったら初めから書かなかったらよかったんですよ。そういうものを出してきて、ちゃんとした説明もせずに通していくというのはこの５５０万円だったということだったというふうに思います。

それで、この提言の中に、最後３番目に、「整備財源については、現段階においては最も現実的な過疎対策事業債を想定しているが、極力、将来に負担を残さないためにも云々」というふうに書いてあります。

そこで、財政課長にお聞きしたいんです。建設費の整備費の見込みというのは、私が出したん違うんですよ。町が出しているんですよ。私が勝手に掲載したん違いますから誤解のないようにしていただきたいんですけども、グリーンティとの関係で、要は、かさ上げをせないかん、安全対策をせないかんということで経費が膨らむんですけど、これでいうと最高１１億円と。現時点では１１億円だけど、これから何年もたつわけですから、今後もっと膨らむかもしれないということを考えると思うんですけども、最高４億円近い差がありますよね。こういった部分で財政的に考えて、極力、将来に負担を残さないという意味では矛盾するんじゃないかというふうな思いもあるんですけども、その辺どう評価されていますか。

○委員長（岡田 勇君）

総務課長。

○総務課長（岡田博之君）

はい、岡本委員のご質問にお答えさせていただきます。

まず、財政的な面で言いますと、やはり和東町、もし総合保健福祉施設を建設する

となると、平成14年ぐらいまででしたら国庫補助金がつきました。今回、その制度につきましては廃止がされておりますので、やはり和東町で最も有利な部分というのは、過疎債に頼らざるを得ないというのが状況でございます。

しかしながら、役場福祉課ということで、行政部分の移設につきましては、これは過疎対策事業債は当たらない。一般単独事業債という起債と過疎債、これと合わせまして、やはり備品等整備もしていかなければなりません。

岡本委員がおっしゃるように、現在、計画では8億円から11億円という話があるにしても、もう少し増えるかも分かりません。将来、これから和東町を担う若い世代の方々に負担を残さないように何ができるか、その点で絞りますと、やはり建てるまでに幾らかの資金を和東町として確保しておく。

昨年度、副町長のほうから説明がありましたように、地方交付税、人口が減少するにもかかわらず、当然、その対策としてまちづくりに役立てるようということで、約1億円、地方交付税が増えております。その財源等、計画を持ちまして、令和5年度末には地域福祉基金という基金を積立てさせていただきまして、約5億円ぐらい積み立てたいなということで考えております。

また、過疎対策事業債につきましても、償還する部分3割相当がございます。これについても減債基金に積立てをして、若い世代に負担が残らないように、今のうちから対応するという形で考えているところでございます。

以上です。

○委員長（岡田 勇君）

7番、岡本委員。

○7番（岡本正意君）

経費というのは、どれを取るにしても、多分、今後膨らむでしょう。そういう点では、やはりこれを整備していくという根本になっている基本計画自身がちゃんと透明性を持って説明できるものじゃないと、経費の部分でも変なことになってしまう可能

性がありますから、今後とも新しい課の下で、そこについてはちゃんと説明できるようにやっていただきたいと思います。

今回の質問で最後に、意見書の関係なんですけども、毎年聞いておりますけども、今回も聞いておきます。

17ページの基金管理等というところなんですけども、アグリビジネス株式会社の株式180万円については、登記を確認したところ、みなし解散状態にあり、資産価値が疑わしいため、法的根拠や関係機関の状況を確認しつつ、取扱いについて検討する必要があるというふうに意見では出されております。ずっと何年もかけてやってここまでするかという感じもするんですけども、こういう資産価値が疑わしいというふうに意見が出されているようなものをいつまで未解決のままに置いているんだろうかということなんです。

検討する必要があるということなんですけども、検討して、大体いつ頃までに解決するというめどがおありなんでしょうか。毎年毎年ちょっと何かやりましたとかいう感じでずっと残ってますけども、いつまでに解決するというめどは、令和2年度の決算を受けておありなんでしょうか。

町長、いかがですか。

○委員長（岡田 勇君）

町長。

○町長（堀 忠雄君）

はい、お答えいたします。

法人というのは、株式会社なんですけども、これは税で言うたら申告納付なんですね。だから、申告をされてくると決算を打たれてちゃんとなって存立が分かるんですが、申告納付されてないとなれば名前だけ残ってくると、このところに法的に、人間で言うんだったら、死亡すればすぐ死亡の日が決まるんですけども、行方不明になったら7年かかると。これに類するようなところがありますので、今、岡本委員が言

われたように、いつまで残ってもいいというもんではありませんので、早急に法的に、そして、いつそれが消せるのか。消せた段階でそういう形を取るというのもあると思います。

その辺は監査委員からも早くしろということであります。健全なところで、いつまでも形だけ残すというのはいかがなものか、私も同感であります。できる限り、法的に早く取り、そして、必要だったら議会にもかける内容になるのか、その辺は詳しくは分かりませんが、一定、そういった手続を含めて、可能であれば早くやっていきたいと、これは先のご質問でもいただいておりますので、残しておく必要も何もないわけですから、早く処理していく。これは一定の手続を取って、法的なことと照らし合わせながら、そういう形で処理していくという考えを持っておりますので、意味を持って残しているということではありませんので、その点、ご理解よろしく申し上げます。

どうすればできるかというところのご指導もいただけたら非常にありがたいと、このように思っております。

○委員長（岡田 勇君）

質疑の途中ではありますが、本日の決算特別委員会はこれくらいにとどめ、延会したいと思います。

なお、次回の決算特別委員会は、明日１５日午前９時３０分より本議場で再開いたしますので、ご参集願います。

本日はご苦労さまでした。

午後 ４時１４分 延会

令和 3 年 11 月 26 日

決算特別委員会委員長 岡 田 勇